

悠久同窓会会誌

悠久

阿南高専悠久同窓会



2018・春
第50号

2018年2月20日発行

発行 阿南工業高等専門学校
悠久同窓会事務局
〒774-0017 阿南市見能林町青木265
印刷 (有)山田印刷所



平成 29 年 8 月 12 日 阿部茂旦氏講演会

目次

名誉会長ご挨拶
同窓会会長ご挨拶
学校だより

阿南高専の概況・学生の活躍・学寮（明正寮）便り・一般教養便り
機械コース便り・電気コース便り・情報コース（制御情報工学科）便り
建設コース（建設システム工学科）便り・化学コース便り
広報情報室より・専攻科より

平成 29 年悠久同窓会総会

会員だより

近況短信・勝手に書きます！言いたい放題名作映画紹介（第3回）
川柳をやりましょう！・赤い手帖（27）・平成 29 年日記

現役クラブだより

〈体育部〉弓道部・テニス部・陸上競技部
〈文化部〉吹奏楽部・茶道部

支部だより

東京同窓会
第 31 期生合同同窓会

総会のお知らせ

校歌

寮歌

阿南高専悠久同窓会創立 50 周年記念のご案内



ご挨拶

名誉会長

寺沢 計二

悠久同窓会会員の皆様におかれては、ますますご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

悠久同窓会は今年50周年を迎え、秋に開催される記念行事の準備が着々と進んでいると伺っています。阿南高専を無事卒業しますと悠久同窓会に仲間入りする訳ですが、このところ卒業生の就職、進学は共に極めて順調で、求人倍率が毎年20倍を超えるという状況が続いています。これも先輩の皆様方が永年にわたり実績を積み重ねてきたご努力とご活躍の賜物と、ここに改めて感謝の意を表する次第です。

さて、この場をお借りして、阿南高専を含む高専を取り巻く昨今の状況についてご報告させていただきたいと存じます。

阿南高専を含め多くの高専は、東京オリンピックの開催を目前に控え高度成長期を迎えつつあった我が国にとって欠かすことのできない優秀な技術人材を早期に養成するため、中学を卒業した15歳の若者に、5年間で大卒をも凌ぐ高度かつ実践的な工業技術を習得させる世界に類を見ないユニークな学校制度として発足しました。それから50年あまり経った今、この高専制度が、アジアをはじめ急発展する諸国において高い注目を集め始めています。

ここ2、3年ほどの間に、モンゴル、タイ、ベトナムで、文部科学省や国立高専機構の支援によって新たに「KOSEN」が発足しました。今やKOSENは国際語になりつつあり、上記3か国以外からもKOSEN設立に熱い関心が寄せられていると聞いています。

このように高専は今や世界レベルでも注目を集めつつありますが、国内的にはともすれば地味な存在で、産業界では高い評価を得ているものの、各県に1校程度という状況もあってまだまだ一般には高専の知名度は決して高いものではない、というのが実情です。

ところが、近年のICT技術の急進展に伴い、サイバーセキュリティやIoT、そしてロボットや人工知能(AI)といった技術を支える、あるいはこうした技術を既存の産業やビジネスに適用できる高度専門人材の不足が極めて深刻になりつつあることを受けて、若いうちから実験、実習やプログラミングなどに習熟し高いレベルの技術を身につけた人材を輩出してきた高専に、産業界にとどまらず政界からも高い関心をひく状況が生まれつつあります。

昨年暮れの日本経済新聞に、2面ぶち抜きで高専の特集記事が掲載されたのをご覧になった方も少なくないのではないかと思います。また、これに先立ち昨年春から日経産業新聞に高専の連載記事が掲載されており、阿南高専も竹活用への取り組みが紹介されました。

このように、一般マスコミでも高専への注目度が高まりつつある中、政界でも与党自民党に「高等専門学校を考える議員連盟」(高専議連)ができ、地方創生への人材輩出への期待も相俟って高専を応援いただいています。ここ十数年にわたり独立行政法人化した高専の予算は削減の一途を辿っていましたが、このような状況を背景に昨年度から僅かずつながら増額に転じ始めました。

厳しい財政事情ではあるものの、従来から阿南高専では、アクティブラーニング(能動的な双方向の教育手法)の導入や、スマホ、電子黒板などのネットワークツールの積極活用など先進的な教育手法の導入に取り組むとともに、農業、水産業にLEDやドローンを活用したり、小水力発電の開発など地域貢献にも力を入れてきました。また、ドイツやアジアの大学との交換留学生の相互派遣なども積極的に行っており、こうした実績も背景に積極的な予算申請を行い、近年では計画的な校舎改修や1学科5コース制、化学コース新設に伴う先端計測・実験機器の導入、アクティブラーニング専用教室の整備(2教室)などを行って参りました。

折しも安倍内閣が掲げる「人づくり革命」下において大学をはじめとする高等教育機関の「無償化」が議論されており、それに合わせて世界の趨勢に取り残されつつある日本の大学の思い切った改革の必要性が叫ばれつつあります。阿南高専は、高専がKOSENとして世界に注目を集めつつある状況を千載一遇のチャンスととらえ、今後も他の高専に先んじて様々なチャレンジを行っていききたいと考えています。

悠久同窓会の会員各位におかれては、このような高専の現状を改めてご認識いただき、様々な形で高専を、阿南高専を応援していただき、また高専の一層の発展に向けて声を上げていただき、高専のPR、価値向上にご助力をいただければ大変有り難く存じます。

最後にこの紙面をお借りして、阿南高専にとって近年最も注目を集めることになるであろうイベントについてお知らせさせていただきます。

本年10月27日(土)、28日(日)の両日、アスティとくしまにおいて「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」(高専プロコン)が本校を主幹校として開催されます。全国からプログラミング自慢の高専生が一堂に会し、「ITの未来がここにあるでないで」との大会キャッチフレーズの下、課題、自由、競技の3部門でプログラミングの技量や斬新な発想を競い合います。今年の課題部門は、「ICTを活用した地域活性化」と、まさに時宜に合ったテーマ設定となりました。

高速ブロードバンド環境を背景に多くのIT企業のサテライトオフィス進出が相次いでいる徳島においてこうした一大イベントが開催され、全国から前途有望な高専生や、このような活動に協賛いただく多くのIT企業の方々がこの徳島に集い、ICTによる地域活性化に若い頭脳と腕を競い合うということは、阿南高専はもとより本県全体にとっても極めて意義深いものです。悠久同窓会会員各位におかれては、ご家族、お知り合い、会社の方などにどうかお声掛けいただき、こぞってご来場を賜れば幸いです。



ご挨拶

同窓会会長

兼 松 功

梅散り桜いまだしの候、悠久同窓会会員の皆様方には益々御健勝の事とお喜び申し上げます。

平素は本会運営におきまして役員の方は勿論の事、全国各地で活躍なさる会員の皆様方には一方ならぬ御協力を頂き衷心より御礼申し上げます。

米中の景況に左右されながら日経平均は26年ぶりの高値を記録し、都市圏のIT企業の躍進、機械や半導体の輸出関連企業の好況に牽引され、徳島県内でも製造業を中心に景況感は緩やかですが持続しているようです。

その反面、若年労働者は都市部へ流出し昨年中旬より本県でも中小企業の経営上の問題点の第1位は「労働力不足」となり経済活動にも影響が出ており、エネルギー資源関連の高騰、天候不順による生鮮食品の値上がり等「ゆりのりのある生活」とは程遠いのが県内の現状であります。

さて近況ですが、本年（平成30年度）で同窓会も第1回生の方が卒業してから半世紀を迎えます。

前号で案内を致しました「悠久同窓会創立50周年」の記念事業は、徳島悠久同窓会の役員を中心に実行委員会を立ち上げ、昨年の秋より具体的な事業内容を協議致しております。

実行委員長に土木工学科第7回卒業生の安平剛之氏（小松島商工会議所会頭）に就任をお願いし、毎月下旬に徳島市内で実行委員会を開催し、記念式典・講演会・祝賀会・前日のゴルフコンペと各担当者を中心として現在は骨子を協議致しております。

大会日程は平成30年11月10日（土）で大会スローガンは「切り拓こう！ 悠久の未来を」に内定、記念講演会の講師は卒業生の中から大会スローガンに沿ったグローバルな講演が聞ける人選を行います。

記念式典は来賓を減らし卒業生本意のプログラムになるよう本年に入り詳細を詰めて参りたいと考えております。

開催日時、場所、事業内容、登録料等は本紙に掲載されておりますので御確認頂き多数の会員の皆様に登録頂きたいと考えております。

11月10・11日と母校では文化祭（阿南高専蒼阿祭）が開催され昼間は母校訪問、夕方より記念大会参加と「一粒で二度美味しい！」晩秋は如何でしょうか？

ちなみに皆様方は「ロボコン」は御存知ですよね。じゃあ「プロコン」って聞いたことありますか？

正式には「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」

という大会名らしいのですが、阿南高専が主管校となり第29回大会が10月27・28日と2日間徳島市のアスティとくしまで開催されます。

私も十分内容は把握いたしていませんが、「ロボコン」がハードのコンテストなら「プロコン」はソフト？そんな単純な発想ではなく、競技部門と課題部門・自由部門に分かれて実施され、阿南高専は「プログラミング同好会」が過去に優秀な成績を収めているとか。

本年の課題部門のテーマは「ICTを活用した地域活性化」、第4次産業革命のイノベーションをあらゆる産業や社会生活に取り入れ、地域活性化にスポットを当てICT技術を活用して地域の課題や問題点を解決する作品を作り上げる大会らしいのです。

今回は徳島県も大会に賛同いただけるそうで、県、地元企業、協賛企業の企画ブースも有り、協賛企業は40社以上が参加し優秀な学生の発掘の為、人事担当者を中心に500名程の方が来県するとか。初日の27日には中学生ロボコンも実施されます。

一般にも公開致しますので同窓会員の皆様方も母校応援のため是非お越しくださいませ。

本年も同窓会総会が8月12日（日）受付10:30より母校で開催されます。

平成27年より総会前の11:00より各分野で活躍なさっている卒業生の講演会を実施し、総会後は名誉教授会と交流して昼食会（会費無料）を実施いたしております。

アルコールが出ませんので同窓生を誘ってお車で気安く御参加下さい。（出席時は兼松:090-1001-3583まで連絡）

詳細は本誌の巻末に掲載されていると存じますので、是非来校頂き母校の近況をお聞き下さい。

結びとなりましたが会員の皆様方に本年11月10日「悠久同窓会創立50周年」記念事業でお逢いできます事と、皆様方のご健勝ご多幸祈念申し上げます挨拶とさせていただきます。



本年1月22日に徳島市内で開催された50周年実行委員会後の新年会（右から二人目が安平実行委員長）

学 校 だ よ り

阿南高専の概況

教務主事

坪 井 泰 士

悠久同窓会員の皆様、新年、おめでとうございます。

平成29年1月からの本校の概況をお知らせします。

1月22日に推薦による選抜検査、2月19日に学力による入学検査を実施しました。志願倍率は、1.5倍でした。広報情報室と連携し、本校の魅力の発信を続けています。

3月2日には、キャリア支援室（田中達治室長）により、企業合同説明会を開催しました。176社の参加があり、4年生らが企業担当者から説明を受け、就業について相談しました。キャリア支援室が中心となり、1年生から3年生にかけてキャリア教育を継続しています。学生が自立して社会に旅立てるよう、今後とも努めます。

海外インターシップとしてドイツ、タイ、インドネシア、ベトナム、台湾、シンガポールに29名の学生（本科4年生11名、専攻科生18名）が、国内の企業インターンシップに111名の4年生が参加しました。3年生より長期的に企業で学ぶコーオプ教育には3年生10名、4年生10名が参加しました。

3月14日に卒業式、修了式を挙行し、148名の卒業生、5名の修了生を送り出しました。卒業生のうち92名が就職し、54名が大学に編入学しました。修了生のうち2名が就職し、3名が大学院に入学しました。卒業生に占める就職生は約62%です。昨年度にくらべ、進学者の比率が、10%程度と高くなっています。

4月5日の入学式では、創造技術工学科第4期の160名の新生を迎えました。1年間学んだ後、2年次に機械・電気・情報・建設・化学の5コースに配属となります。平成30年度4月の入学をもって、創造技術工学科が完成することとなります。

8月9日・10日には、中学生体験入学を開催しました。中学生320名、保護者122名、中学校教員54名を迎え、「羽ばたき飛行機をつくろう！」（機械）、「電気UFOを製作してみよう！」（電気）、「LEGOで騎馬戦！」（情報）、「厚紙でアーチ橋を作ってみよう！」（建設）、「テルミット法で鉄を溶かしてみないか！」（化学）などの計42講座を開設しました。なお、中学生等の送迎用に、鳴門駅、穴吹駅と本校の間に借り上げバスを運行しました。

自由参加の台湾研修旅行には35名が参加しました。国際交流室（林田栄治室長）の支援による国際交流も活発で、ベトナムをはじめとして、ドイツ、インドネシア、台湾、シンガポールなどから留学生を多数（平成29年度でこれまで17名）受け入れています。

昨年度よりはじまった、大学編入学を含むより高度な学

習を希望する学生を対象としたセミナーを継続しています。3年生以上を対象とする希望制で、数学が中心です。

教育開発推進室（松本高志室長）が主導して導入したラーニング・マネジメント・システム（学生の修学状況を教員とともに共有する電子システム；レポート等の課題のやりとりなども可能）の活用も進み、学生の課外学習もいっそう定着してきました。

有志教員によるアクティブ・ラーニング研究会が主催する勉強会もさらに回数を重ね、新たな授業手法の定着がいっそう進んでいます。これは、一方向的な講義でなく、学生自身による積極的な学びを促進する授業であり、学生の分野横断的能力（人間力）育成に大きく資するものです。電子黒板や可動式ミーティングボード、アクティブ・ラーニング用の机と椅子を備えたスタジオを、改修した図書館に2室開設し、授業に活用しています。このアクティブ・ラーニングについては、本校を訪れた文部科学省審議官、機構本部事務局長にも公開しました。

本校の使命の第1は、学生の教育です。校訓「真理・創造・礼節」のもと、人間性と実践的な知識・技術をあわせもつ学生を育むべく、取り組んで参ります。

今年が、皆さまとそして阿南高専にとってより良き一年となりますように。

学生の活躍

学生主事

錦 織 浩 文

今年度より学生主事を務めております。よろしくお願いたします。

皆様のご支援を受け、今年度も様々な場面で学生の活躍が見られました。その一部を紹介いたします。

○水泳

日本選手権出場（徳島県勢として7年ぶり）

男子50mバタフライ 亀田翔矢（5M）

ジャパンオープン出場男子

50mバタフライ 亀田翔矢（5M）

100mバタフライ 亀田翔矢（5M）

日本学生選手権水泳競技大会出場

男子100mバタフライ 亀田翔矢（5M）

国民体育大会出場（水泳競技）

100mバタフライ 亀田翔矢（5M）

全国国公立大学選手権水泳競技大会

100mバタフライ 第2位 亀田翔矢（5M）

中国四国学生選手権水泳競技大会兼中国四国国公立大学選手権水泳競技大会

100mバタフライ 優勝 亀田翔矢（5M）

100m自由形 優勝 亀田翔矢（5M）

インターハイ出場（水泳競技）

男子200mバタフライ 奥田真也（2M）

四国高校総体出場（水泳競技）

男子 100m バタフライ 奥田真也（2M）

男子 200m バタフライ 奥田真也（2M）

○陸上

国民体育大会出場（陸上競技）

少年男子共通三段跳 谷 亮磨（3C）

成年男子共通 4×100 mR 谷 亮磨（3C）

インターハイ出場（陸上競技）

三段跳 谷 亮磨（3C）

四国高校総体出場（陸上競技部）

男子走幅跳 谷 亮磨（3C）

男子三段跳 谷 亮磨（3C）

男子 5000m 競歩 島田史也（3M）

男子棒高跳 谷 知篤（1-1）

男子 800m 野口佑大（3C）

女子七種競技 新居鈴菜（2C）

女子 100mH 新居鈴菜（2C）

全国高等専門学校体育大会（陸上競技）

男子 200m 優勝 宮田将吾（5C）

女子 100mH 優勝 新居鈴菜（2C）

○テニス

四国高校総体出場（テニス競技）

男子団体

女子シングルス 森吉瑛里子（2Z）

全国高等専門学校体育大会（テニス競技）

男子団体 優勝

女子ダブルス 優勝

瀧根風香（3M）・森吉瑛里子（2Z）ペア

○ソフトボール

四国高校総体出場（ソフトボール競技） 男子団体

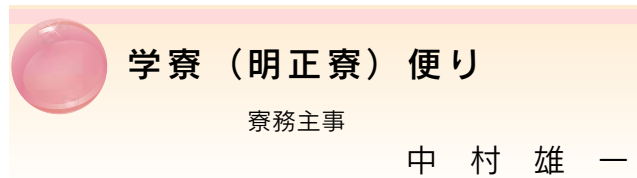
高専ロボコン 2017 四国地区大会（高知高専）は、「大江戸ロボット忍法帖」をテーマとし、敵味方陣地およびロボットに取り付けた風船を割りあう競技で行われました。本校から出場したのは2チーム。うちAチーム（ロボット名「noiSy（ノイズ）」）は、他のチームにはない独創的で高度な制御技術、そしてロボットを一心同体で操縦しているその姿が子供たちの目を輝かせたという理由により、技術賞と特別賞（ROHM）のダブル受賞となりました。

全国高専プログラミングコンテスト（周南市）は、課題部門で1案、自由部門で2案が予選通過し、競技部門と合わせて3部門4チームで本選に出場しました。「スポーツで切り拓く明るい社会」がテーマの課題部門作品「ブラシでこすれ「ヤー！」カーリング」は、氷のリンクが無くともストーンに見立てたヤカンを投げると映像の中にストーンが投げ込まれ、ブラシでスイープすることでストーンのコントロールまでも可能としたカーリングを本格的に楽しむことができるシミュレーションシステムを提案し、富士通企業賞と学生相互評価での課題部門1位を獲得しました。自由部門では耳の不自由な方の来客対応を支援する「Safety Intercom～安心来客対応支援システム～」が日立製作所企業賞を受賞しました。

高専デザコン 2017 in 清流の国ぎふ（岐阜市）は、建設システム工学科、建設コースの学生9名が出場しました。構造デザイン部門（参加56作品）で「Lesves」が9位、「武双」が38位、創造デザイン部門（予選49作品、本選10作品）で「Cで創るコミュニティ」が6位という成績でした。来年度は、北海道釧路市で開催されます。

四国地区高専総合文化祭（新居浜）では、写真部門において5C 関風花さん（作品名「見渡す限りの」）が優秀賞、将棋部門（個人）において4I 澤口葵伊くんが準優勝の成績を収めました。

平成30年度は、全国プログラミングコンテストを本校が担当します。10月27日～28日、会場はアスティとくしま。盛大なコンテストですので、開催にあたっては多くの方にご協力をお願いすることになると思います。その節にはどうぞよろしくお願い申し上げます。なお、当日は、プログラミングコンテストのほか、本校の公開講座、中学生ロボット競技会、徳島県企画など様々な催しを行う予定です。多数のお越しを心待ちにしております。



学寮（明正寮）便り

寮務主事

中村 雄一

悠久同窓会会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。今年度より寮務主事を務める電気コースの中村です。新米主事ですが、副寮務主事：加藤研二先生（建設コース）、寮監：園田昭彦先生（一般教養）、寮務主事補：伊丹伸先生（機械コース）、生田智敬（電気コース）、太田健吾先生（情報コース）、一森勇人先生（化学コース）、寮務係長の白田さんと係員2名、学寮指導員2名に支えられながら、何とかやってきました。

さて、今年度の学寮のスローガンとして「寮のためにできること。自分のためにすべきこと。」を掲げました。寮生全員が寮を良くするために自身で考え・行動できることを目標にしています。このスローガンのもと、役員寮生をはじめ各委員会の寮生が、寮の制度や環境改善のため、日々努力してくれています。

成果のひとつとして学寮のごみ処理問題に対する取組み「学生寮ごみゼロ宣言」があります。400名以上の寮生が生活する学寮では大量のごみが発生し、その処理のため毎年多くの経費がかかっていました。そこで、役員研修（9月25日～26日）として役員寮生および環境委員の中心メンバーがゼロ・ウェイスト（上勝町）およびエコみらいとくしま（徳島市）の視察を行い、ごみ処理の先進的な取組みについて知識を得てきました。この研修の様子は、10月3日の四国放送・フォーカス徳島で「学生寮ごみゼロ宣言目指して」のタイトルで紹介されました。この研修後、役員寮生と環境委員が直ちに寮内のごみ分別方法・収集方法などについて検討し、「学生寮ごみゼロ宣言」を実


現すべく改善に取り組んでいます。なお、「学生寮ごみゼロ宣言」は加藤先生が主に指導してくれています。

最近では阿南高専における国際交流の活性化により、留学生の人数も増加しています。明正寮は留学生に対しても生活の場を提供しています。今年度は、マレーシアおよびモンゴルからの正規留学生が2名編入学し、合計5名になりました。また、交換留学の短期留学生は前期中に11名(ドイツ、インドネシア、ベトナム、台湾)が、現在もシンガポールから3名が学寮生活を経験しています。短期留学生も寮祭等の各種行事に参加し、他の寮生との交流も盛んに行われています。

もう一つ大きな話題として、明正寮の一部改修がありました。昨年8月中旬から12月末までの期間で1号館3階の改修工事を行い、3人部屋から2人部屋に変更するとともに共用スペースを広げました。広くなった共有スペースはアクティブ・ラーニングでの使用を考慮して、学生が自主的に、また互いに教え合える環境になっています。明正寮建物のほとんどの部分は前回の改修から10年以上の年月が経ち、老朽化が進んでいます。居住環境の改善のため、改修予算の申請を計画的に行っていきます。なお、5号館全面改修に対する予算が決定しており、今年8月以降に改修工事を行う予定となっています。

以上、学寮に関する話題を思いつくままにご報告いたしました。ご存じのように学寮では勉強だけでなく、自主性や社会性を学ぶ場でもあります。学寮生活を経験したことは、高専生の強みになります。充実した学寮生活が過ごせるよう教職員一同もサポートに努めていきます。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



一般教養便り

一般教養主任

藤 居 岳 人

悠久同窓会会員の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。今年度、一般教養主任を務める藤居でございます。よろしく願いいたします。

阿南高専が創造技術工学科一学科になって4年目です。ということで、以前の「一般教科」が「一般教養」に名称変更になって、こちらも4年目でございます。名称は変わっても教養教育重視の姿勢は変わらず、低学年を中心とした高専学生の教育に引き続き邁進してゆきたいと存じます。

それでは一般教養教員の異動についてご報告いたします。まず、英語の城本春佳先生は、サバティカル制度を利用して今年度1年間、東京大学で博士後期課程に在学されつつ博士号取得を視野に入れてご研究に専念されています。ぜひひとまわり大きくなってお戻りになり、以前にもまして高専での教育に貢献していただきたいと期待しております。次に、高専間人事交流制度によって、今年度から

2年間の予定で高知高専から英語の赤山幸太郎先生が本校に着任されています。赤山先生はアメリカ文学がご専門で、本校のアクティブラーニングの取り組みについて学びたいとのことでございます。以前、私も人事交流制度を利用して2年間、奈良高専に赴任していました。そのとき、同じ高専でも学生の雰囲気や学校内の仕組みなど、さまざまな点で相違していることを知り、大いに刺激を受けた記憶があります。赤山先生には、ぜひ阿南高専のよい点を吸収されて高専教員として成長されることを願っています。

続いて、今年度の一般教養の教員をご紹介します。国語は、坪井泰士先生、錦織浩文先生(国語教科主任)です。主な校務は以下の通りです。(以下、各教科とも同じ)

坪井先生 教務主事

錦織先生 学生主事

社会は、今田浩之先生(社会教科主任)、藤居です。

今田先生 図書館長、2Z担任

藤居 一般教養主任

数学は、川崎敏和先生、田上隆徳先生、櫛田雅弘先生、山田耕太郎先生(数学教科主任)、西森康人先生です。

川崎先生 2M担任

田上先生 2E担任(学年主任)

櫛田先生 1-3担任

山田(耕)先生 副教務主事、1-4副担任

西森先生 2C担任

英語は、林田栄治先生、勝藤和子先生、谷中俊裕先生、藤井浩美先生(英語教科主任)、赤山幸太郎先生です。

林田先生 国際交流室長、1-1副担任

勝藤先生 広報情報室長、2学年副担任

谷中先生 1-4担任

藤井先生 学生相談室長、1-2副担任

赤山先生 教務主事補、2学年副担任

理科は、松尾俊寛先生(理科教科主任)、山田洋平先生、園田昭彦先生です。

松尾先生 1-1担任(学年主任)

山田(洋)先生 1-2担任

園田先生 寮監、1-3副担任

体育は新井修先生(体育教科主任)、中島一先生です。

新井先生 2I担任

中島先生 副学生主事、2学年副担任

今年度は以上のメンバーで学生の教育・指導に取り組んでいます。個人的なことですが、2017年10月に、31期生(1998年卒業)の卒業20周年を記念した同窓会に招かれ、多くの卒業生と楽しい時間を過ごすことができました。卒業生がそれぞれの分野で活躍されている様子をうかがうことができ、非常にうれしく思いました。また、自分が若い頃に教えた卒業生のご子息・ご令嬢がちらほら阿南高専に入学してくるようになりました。親子二代の学生を教えるというのは、自分でも感慨深いです。そしてまた、一人前の技術者になってもらえるよう、いっそうしっかりと教育に努力せねばと気持ちを新たにしています。悠久同窓会の皆さまにもさまざまな面でご支援いただければ幸い

でございます。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆さまのより一層のご健勝とご多幸とをお祈り申し上げます。



機械コース便り

機械コース主任

原野 智 哉

平成 29 年度からはじめて機械コース主任をさせて頂いています原野（2000 年 4 月赴任）です。よろしくお願ひ致します。学科改組に伴い残すところ 5 年生のみ機械工学科になりました。少し寂しいですが、機械工学科としての卒業生は最後になります。平成 30 年度には 1～5 年生まで創造技術工学科機械コースとなり、1 学科 5 コース制への移行が完了します。機械コースでは、第 4 次産業革命、IoT 技術の急激な発展に教育内容を考慮しメカトロニクス実験を 3 年生に導入する一方、機械四力学（材料力学、機械力学、熱力学、流体力学）に軸足を置きつつ、3 次元 CAD や 3D プリンタを活用できる機械設計技術者の育成を目指し、授業をはじめ機械工学実験や卒業研究を推進しています。平成 29 年度も日本機械学会デザインコンテストに授業の一環で受講者全員が作品を応募し、奨励賞を 3 件受賞しました。機械コース教員 9 名のうち 3 名が卒業研究でメカトロニクス技術を活用したものづくりを展開しています。また、平成 19 年度からの 3 次元 CAD 導入と教育により、卒業研究で機械構造材の応力解析をはじめとし、流れや機構さらには電磁界などのシミュレーションを実施する教員も増えてきました。卒業研究活動において、5 年生による学会発表が本年度 2 件あり、卒業研究の高度化も取り組み始めています。今後、「ものづくりのパーソナル化」や「IT と機械の融合」がさらに進展していく状況下で、機械工学実体験（リアリティの追求）をどのようにさせるかが課題になりそうです。

本年度 5 年生の就職・進学は極めて順調でした。特徴としては、専攻科進学が 14 名と過去最多で、大学編入学を併せると合計 18 名（44%）、就職が 24 名（56%）と進学者数が大きく増加しました。大学編入学者数は大阪大学 1 名、岡山大学 2 名、長岡技術科学大学 1 名でした。一方、就職については機械工学科への求人社数は 652 社に登り、求人倍率は 27 倍、就職 24 名のうち県内就職はわずか 5



日本機会学会デザインコンテスト表彰（校長室）

名と県外就職率が約 80% と従来にない極めて高い割合でした。今年も 3 年生からキャリア意識を醸成するため、機械コース 3 年生で 3 月 21～22 日にかけて新日鐵住金広畑製鐵所、クボタ、大阪国際空港 航空機整備工場を見学しています。

最後に、機械コース教員の校務と専門分野を紹介させて頂きます。企業に勤務されている卒業生で技術相談・共同研究案件があれば、是非ご連絡を頂ければと思います。多田博夫（5 M 担任・就職担当：機械設計、3 次元 CAD・CAE、機械力学）、西野精一（専攻科長：材料力学、材料強度学）、原野智哉（機械主任：設計工学、機械機能要素、トライボロジ）、大北裕司（4 M 担任：流体工学、乱流工学、ウォータージェット加工）、川畑成之（1 MC 担任：構造力学、最適設計、制御工学、複合材料）、西本浩司（教務主事補：溶接・接合工学、レーザ加工学）、松浦史法（学生主事補：メカトロニクス・知能機械・可視化情報工学・計測工学、制御工学）、伊丹伸（寮務主事補：分光學、光計測）、安田武司（3 M 担任：機械加工学、塑性加工学、アコースティックエミッション）、中岡信司（機械設計製図、機械工学実験実習）



工場見学旅行（大阪国際空港 航空機整備工場）



電気コース便り

電気コース主任

松本 高 志

悠久同窓会会員の皆様、春草萌えいづる季節を迎え、お元気でお過ごしのことと存じます。今年度の電気コース主任を務めております松本です。

今年度も終わりに近づき、平成 29 年度の電気コースの人事ならびに校務についてご報告いたします。中村厚信先生は点検・評価委員会委員長として、来年度に控える高専機関別認証評価の受審準備を担当されました。中村雄一先生は寮務主事として寮を運営されました。長谷川先生は専攻科長補佐、小松先生は副学生主事、小林先生は 3 E 担任を担当されました。西尾先生は教務主事補、藤原先生は 4 E 担任、香西先生は 3 E 副担任、生田先生は寮務主事補を務められました。松本はコース主任のほか、教育開発推進室長として「文科省大学教育再生加速プログラム（学修成果の可視化）」の推進、FD 委員長として教員研修を担当、

また国際交流副室長として国際交流も担当しました。今年度は、電気棟改修工事が完了して新しい教室・実験室を活用しています。インタラクティブ・プロジェクトを多数導入して学びやすい環境を構築しています。

今年度の卒業予定者は37名で、24名が就職、13名が進学予定です。就職の内訳は四国電力(株)4名、花王(株)3名、王子製紙(株)2名のほか、富士フィルムメディカル(株)、ABB(株)、出光興産(株)、(株)日立ハイテクフィールドイング、ABB日本ベレー(株)、(株)カネカ、ダイキン工業(株)、オムロン(株)、大塚製薬(株)、第一三共プロファーマ(株)、関西電力(株)、中国電力(株)、サントリープロダクツ(株)、東亜合成(株)、日亜化学工業(株)がそれぞれ1名です。一方、進学の内訳は、阿南高専専攻科6名、電気通信大学2名、豊橋技術科学大学3名、長岡技術科学大学、清水海上技術短大がそれぞれ1名です。今後も学生のために、より良い教育を目指して頑張っていきますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、悠久同窓会会員の皆様のみますみのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

されるとともに、就職担当として悩み多き学生の就活をよく指導されています。吉田晋先生は、総合情報処理室長を続投されるとともに、高専プロコンや学外コンテストに学生を送り込み、数多くの表彰を受けるなど活躍されています。福見先生は、4年生担任に熱心に取り組まれるとともに、徳島県と協働してドローンの水産応用に成果を上げられています。安野先生は、教務主事補として新カリキュラム構築に成果を上げられるとともに、ワークライフバランス・男女共同参画責任者として職員の働き方改革に邁進されています。平山先生は、3年生担任に取り組まれるとともに、総合情報処理室副室長として本校ネットワークの構築と管理に活躍されています。太田健吾先生は、寮務主事補に従事されるとともに、全国高専プロコンの競技部門の委員として活躍されています。

次に5年生の進路状況についてですが、就職21名、進学19名の行先が決まっています。就職先は、キャノン、日亜、JALエンジニアリング、関西電力、セゾン情報、STNet、オムロン、JBSテクノ、NTTネオメイト、京セラ、コベルコなどです。進学先は、本校専攻科、長岡技大、豊橋技大、徳大、群馬大、静岡大、筑波大、名大工学部などです。

最後に、悠久同窓会の皆様方のご多幸と今後のみますみのご発展をお祈り申し上げますとともに、本年度10月に本校主幹でアスティとくしまで開催される全国高専プロコンに応援と。



情報コース(制御情報工学科)便り

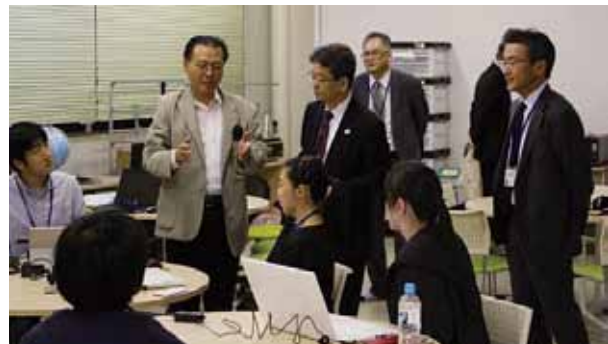
情報コース主任

杉野 隆三郎

悠久同窓会会員の皆様方、だんだんと温もりが感ぜられ、学生時代の出来事をふと思い出される季節となりました、お変わりありませんでしょうか。長く続いてきた制御情報工学科便りも今回が「最終号」となります。

さて、学科改組に伴う情報コースのカリキュラム完成が残すところ第5学年となるとともに、最後の制御情報工学科卒業生を卒業させるため奮闘する日々であります。このように制御情報工学科が情報プロパーのコースに生まれ変わる中、県南に進出してきたITベンチャー企業との教育や研究上の協働プロジェクトが増えてまいりました。また、来年度に本校主幹でアスティとくしまにて10月に開催される全国高専プログラミングコンテストの準備が徐々に本格化してきており、各方面と協力して「高専プロコン」で徳島を盛り立てよう教職員一同がんばっているところです。これらの取り組みから新しい情報産業の息吹を少しでも学生諸君が感じてくれ、有能な情報エンジニアとして成長できることを祈念しております。

ここで、学科の近況についてご報告いたします。岡本先生は、人事交流で派遣されていた長岡技科大から帰任され、学生主事補と全国高専プロコンの主幹校総務として活躍されています。岩佐先生は、副校長と地域連携テクノセンター長を兼務され、学校全体が活性化するよう広範囲の活躍をされています。田中達治先生は、キャリア支援室室長を続投され、情報コースの発展に寄与できるキャリア教育の構築に邁進されています。福田先生は、5年生担任を



阿南高専・情報コース・オープンラボとIT企業東京本社・テレワーク勤務者をWEB会議システムでつないで展開する共創学び場プロジェクトを視察する文部科学省審議官



山口県周南市文化会館で10月に開催され第28回全国高専プログラミングコンテスト(大島商船高専主幹)で企業賞を受ける情報コースの学生諸君

建設コース(建設システム工学科)便り

建設コース主任

笹田 修司

悠久同窓会の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。今年度も建設コース主任を務めております笹田です。よろしくお願いいたします。

まず、教員の近況について報告いたします。まず、本年度の教員人事は特に変わりはありませんが、湯城先生には嘱託教授の任期満了後も非常勤講師として、授業や学生への就職支援等を行って頂いておりましたが本年度末までとなりました。建設コース内の主な校務としては、堀井先生は教務主事補、松保先生は学生主事補、吉村先生は専攻科長補佐・2MC担任、森山先生は5C担任、加藤先生は寮務副主事、長田先生は3C担任、川上先生は3C副担任、池添先生は4C担任を担当しております。

今年度の卒業予定者の進路は、県内就職4名、県外就職18名、進学等8名が決定しております。就職の内訳は、県内就職先は㈱イー・アンド・ビー、佐々木建設㈱、大鵬薬品工業㈱徳島工場、徳島県です。県外就職はNTTインフラネット㈱、国土交通省四国地方整備局、国家公務員一般職、五洋建設㈱(2名)、三機工業㈱、JXTGエネルギー㈱、㈱ジャパンコミュニケーション、大協建工㈱、高田機工㈱、玉野総合コンサルタント㈱、電源開発㈱、東海旅客鉄道㈱(2名)、東急建設㈱、西日本旅客鉄道㈱、日本オチス・エレベータ㈱、三菱電機ビルテクノサービス㈱に内定しております。進学等は、阿南高専専攻科、岐阜大学、群馬大学、徳島大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学(2名)、三重大学、高知県立林業大学校です。就職求人については、悠久同窓会会員の先輩の方々から多くの問い合わせをいただき感謝しております。しかしながら、折角、ご厚意をいただいております求人のご要望に添えず申し訳ありません。しかしながら進路指導においては、学生の希望や保護者の意向を最優先に考え、公平な立場で指導した上での結果ですので、どうかご理解の上、今後ともご支援を宜しく願います。

次に建設コース行事として、本年度も徳島県技術士会のご支援で行っている出前講座を3年生と4年生の各クラス学生に対して行っていただきました。学生にとって、この徳島県技術士会の出前講座は、自身の将来を考える上で有意義な機会であり、今後も可能な限り継続していきたいと思っております。また、恒例行事として、4月には建設コースに配属された2年生を対象に北の脇海岸での測量実習後のバーベキューパーティ、さらに12月には建設球技大会を行い、教職員や学年上下間の交流を深めることにも努めております。

最後になりましたが、今後も学生のためにより良い教育を目指して頑張っていきますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたしますとともに、悠久同窓会員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

化学コース便り

化学コース主任

西岡 守

悠久同窓会会員の皆様、お元気でお過ごしのことと存じ上げます。

本年度、化学コース主任を務める西岡(第11期・機械卒)です。よろしくお願いいたします。

今年度から専門の化学コースとして2年生25名、3年生26名、及び4年生25名のクラスとなりました。現在の化学コースで勉強している専門科目を挙げます。

2年生専門科目は、化学工学基礎、環境生物学、安全工学、電磁気学基礎、分析化学実験、有機化学実験であり、専門コース1年目となる学生は一生懸命勉強をしています。担任は、一般教養の今田浩之先生が担当されています。

3年生専門科目は、有機化学、無機化学、化学工学1、環境科学概論、電気電子回路、物理化学実験、化学工学実験です。担任は鄭先生です。

4年生の主な専門科目は、物理化学、電気化学、分析化学、環境工学、電磁気学、物質化学実験、生物実験です。担任は奥本先生です。

「化学コース1期生」4年生は、順調です。今年3月、関西地区に2泊3日の研修旅行に行きました。大八化学工業株式会社、株式会社ピカソ美化学研究所、奈良先端科学技術大学、地元企業の見学を実施しました。進学希望者には、教員の母校、共同研究先などの大学研究室の見学を検討中です。

4年生のインターンシップ企業先は100社程度あり、学生はいち早く希望先を決定し、全員が無事インターンシップを行いました。学生2名が参加した県内の大手企業の部長さんから両名のインターンシップに対してお褒めの言葉を頂きました。来年度の就職活動についても、10倍以上の求人先が見込まれています。編入学についても学生の希望を聞き、各大学の編入学資料を収集しています。

いよいよ来年は、第1期生の就職・進学の年度です。教職員全員が学生に対してよりよい教育プログラムを提供し、全ての学生が希望する進路に進めるように全力で頑張っています。化学コースを卒業する学生達がすばらしい技術者となって、輝かしい未来で活躍することを願っています。

今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



2年生 北の脇での課外授業

最後になりましたが、悠久同窓会会員の皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



2年生 初めての白衣でZ文字

広報情報室より

広報情報室長

勝藤和子

今年度（平成29年度）より広報情報室長を担当しております勝藤です。よろしくお願いいたします。今年度の取り組みの概要をご報告いたします。

- ① 6月～8月、例年通り、県内全中学校と淡路地域（南淡）の中学校を訪問し、広報活動を行いました。また、10月、11月を中心として、20の中学校における進学説明会に出席し、説明を行いました。
- ② 6月～11月、高専説明会、及び入試説明会を開催しました。北島町立総合庁舎（6月3日）、南あわじサンライズ淡路（6月4日、10月1日）、阿南高専（8月9日～10日、9月22日、11月11日）、ザ・グランドパレス徳島（10月22日）、脇町老人福祉センター（10月28日）、中には本校卒業生保護者の方にお世話になっている会場もあります。厚く御礼申し上げます。
- ③ 8月18日、第16回中学生ロボット競技会を、徳島市シビックセンターにおいて開催しました。今年度も株式会社徳島銀行様の後援を頂きました。県内6つの中学校から15チームの参加がありましたが、優勝と徳銀杯は鳴門市第一中学校、準優勝と技術賞は小松島南中学校、アイデア賞は城東中学校のチームがそれぞれ獲得しました。当日の一般来場者数は130名、朝日新聞の取材も受けました。

中学生人口の減少の中、本校への中学生の志願者数も減少の傾向にあり、入学志願倍率を維持していくことが課題となっています。「阿南高専」の良さや特色を表に出し、高専の知名度を上げていくことが、今後、さらに必要になってくるであろうと考えられます。今年度は、卒業後の進路の幅広さ、就職はもちろん、進学でも優れた実績を残していることを強調して広報活動を行いました。広報資料には、「未来をつくる技術がある」「行き先は君次第」というフレーズを入れ、学生の澁刺とした表情や活動の写真を多数掲載し、阿南高専の強みや魅力を発信しています。

阿南高専卒業生のみなさまとのつながりを深めつつ、高専が今後も大きく発展していくために必要なことを、一つ一つていねいに取り組んでいきたいと存じます。悠久会員のみなさまにはこれまで以上に協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

専攻科より

専攻科長

西野精一

悠久同窓会の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。専攻科長を務めさせていただいています西野です。よろしくお願いいたします。

専攻科の近況を報告させていただきます。構造設計工学専攻には、1年生10名、2年生6名が在籍し、担任は1年が川畑成之先生、2年が吉村洋先生です。電気・制御システム工学専攻には、1年生10名、2年生5名が在籍し、担任は1年が吉田晋先生、2年は長谷川竜生先生です。平成29年度修了予定者の進路は、両専攻合わせて大学院への進学が2名（奈良先端科学技術大学院大学、豊橋技術科学大学大学院）、企業への就職が9名（日亜化学工業株、大塚製薬工場株、株カネカ、株神鋼環境ソリューション、SUBARUテクノ株、王子製紙株、株イシダ、株ニコンシステム、サントリープロダクツ株、株アルファシステムズ、株ABB、株イシダ）となっており、全員の進路が決定しています。例年よりも、専攻科卒業生の採用を希望する企業が増加し就職予定者が増加しました。

専攻科の活動としては、4月に宇部で開催された中国・四国地区高専専攻科研究交流会に8名の学生が参加しました。口頭発表やポスターセッションで、他校の専攻科生や教員に研究成果を発表すると共に、交流会では本校専攻科PR動画を発表し、交流を深めました。1年生の長期インターンシップ期間には、ドイツのオスナブリュック応用科学大学に3名、台湾聯合大学へ6名、タイキングモンクト工科大学ラカバン校へ3名等、延べ18名が海外留学し、3名が徳島大学や長岡技術科学大学の研究室で研究活動を行いました。インターンシップでの成果や気づきは、1月19日のインターンシップ報告会で発表しお互いに情報共有を行いました。

また、4月には専攻科教育プログラムに対して日本技術者教育認定機構(JABEE)により国際的に通用する充実した教育が行われていることが認められ、JABEE認証を受けました。専攻科修了者は、技術士一次試験が免除され、登録により修習技術者となることができます。今後も学習・研究環境を整え、国際性と高度な専門知識と創造的な実践能力を持ったエンジニアの育成に努めますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

平成29年 悠久同窓会総会



今回の悠久同窓会総会に出席された方々です。

平成29年8月12日

会 員 だ よ り



近 況 短 信



昭和43年度機械 森岡和美

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。早いもので、卒業して約50年になります。悠々自適の生活を送っています、と言いたいところですが、そういう訳にもいきません。5年ほど前に脳梗塞になり、後遺症で右手・右足が不自由になり、現在週に三日、妻に送迎してもらって、リハビリ通院しています。

リハビリも兼ね左手でパソコンを操作し、地元の地域おこし住民団体「加茂谷元気なまちづくり会」の事務局の応援で資料作成をしたり、近況など綴り、地元の新聞に投稿したりしています。投稿原稿から抜粋し、近況報告とします。

会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈りします。

【通信Ⅰ】平成28年12月3日 記

町の名に秘められたロマン

阿南市の西北部加茂谷地区のほぼ中央部に位置する「十八女町」、全国放送テレビクイズ番組で、その読み方が出題されたこともある筋金入りの珍名だ。ほとんどの人に、「何と読むのですか？」と聞かれる。「とやめ町ですか？」どうも、福岡県八女市は、有名らしくその連想か？「いえ、さかり町です」「へー！何で、その名前がついたのですか？」

源氏・平氏の最後の戦いとなった「壇ノ浦の合戦」で、平氏は敗れ、平氏方だった安徳天皇は、この時、壇ノ浦で入水せず、残党に警護されて地方に落ち延びた。安徳天皇は、実は姫宮で、18歳になった時に名乗った名前が「十八女」。隠れ住んだ行宮（あんぐう＝かりみや）所にできた町が、今の十八女町だ。

「十八女」の読み方が、当時から「さかり」であったかどうかは不明だ。「鬼ゆりも今十八か花さかり」（作者不知）という歌もあるように、平均寿命が40歳ぐらいの時代においては、18歳ぐらいが、「女さかり」と考えられ、「娘十八 女もさかり」というような意味合いで、「十八女」が、「さかり」と読まれるようになったのではと考えられる。

因みに、十八女町にある「皇子神社」の主祭神は、安徳天皇で、祭の時、神輿につけた注連縄を戴いて帰り、妊婦のお守りとすれば安産となる信仰がある。十八女町はその由来からして、ロマン溢れる町名だ。

【通信Ⅱ】平成28年12月16日 記

パン屋開店で地域貢献

少子高齢化の進む徳島県阿南市の加茂谷地区。11月13日に初めてパン屋さんが開店した。店名は「和み工房しげばん」。

店主は東日本大震災の原発事故を機に子育てに良い環境を求めて2012年に家族で関東から移住してきた41歳の和田重尚さんだ。地元の消防団や町内会活動にも積極的に参加され、奥さんや息子さんらも地域にすっかり溶け込んでいる。

和田さんは「加茂谷はみんな仲が良く、大きな家族のよう。家族の一員として役立ちたい」と、店舗の少ない加茂谷にパン屋さんをつくることを決意した。地域では高齢で車の運転をやめる人が増えたので、近くに店ができるのはありがたかった。

徳島市のパン屋さんで4年間修業した後、加茂谷で古民家を借り、仲間たちと改装して開業された。開店以来、多くの客でにぎわい、完売の状態が続いている。

那賀川の川面をわたる風に乗って、パンの焼ける香ばしい匂いがあたりに漂う。多くの家庭の食卓に、笑顔とだんらんを「しげばん」が届けてくれた。加茂谷の新しいパワースポットだ。頑張れ！しげばん。

【通信Ⅲ】平成28年12月30日 記

若い移住者から元気もらう

阿南市で住民団体「加茂谷元気なまちづくり会」が、地域おこしに取り組んでいる。

東京、大阪での移住・就農マッチングフェアへのブース出展、加茂谷体験ツアー実施で農地、空き家、就農形態の視察、武蔵野大学の農業体験生受け入れで農業発信などに取組んできた。その結果、昨年から今年にかけて移住してきた若い二組の夫婦が、野菜のハウス栽培に取り組んでいて、周囲の農家にも彼らの熱気が伝わって、大いに元気を貰っている。

ここ数年では、10家族40人余りが移住してきている。水井町では、小学生以下の子どもが一人だったのが、10人を超えた。

また11月には、移住者が中心となって第2回「かもかもフェスタ」が、開催された。休校中の大井小学校を利用した音楽とマルシェのマッチングイベントだ。いつもは閑散とした小学校の校庭に終日、子どもの声や音楽が響き渡り感無量であった。

また古民家を改造して、加茂谷で初めてのパン屋さんを開業した移住者夫婦もいる。焼きたてのパンが食べられる

ようになり、住民は大いに喜んでる。

いま加茂谷のいたる所で、移住者発の元気な渦が巻いている。渦と渦がぶつかって、また新しい渦が起り大きな渦となる。そんな予感が少しずつ現実となってきた1年だ。

【通信Ⅳ】平成29年2月5日 記

天皇退位 納得できる結論に

昨年8月に天皇陛下が、生前退位についてお気持ちを表明されてから、天皇の退位をめくり政府が設けた有識者会議が、このほど論点と考え方を整理して公表した。天皇のお気持ちやそれに理解を示す国民世論の後押しもあり、退位を認める前提に立ち、「将来の天皇も対象とする法制度とするか、今の陛下一代に限るか」について、それぞれの利点と課題を並べている。

内容は、将来の天皇も対象とする場合の課題を多く取り上げる一方で、「一代限り」の利点を詳述しており、後者を有識者会議として推しているのは明らかな内容となっている。一代限りとは、将来にわたる退位の要件や基準を示さず、対応をその時どきの状況判断に委ねることを意味する。

現在の天皇が果たして一代限りといった観点から、生前退位のお気持ちを表明されたのだろうか。到底そうとは考えられない。陛下は長寿化の進む現代そして将来においても、いかようにすれば天皇としての職務が安定的に継続できるかといった観点より、お気持ちを表明されたものであろう。いま提起されているのは、象徴天皇の役割とは何か、その地位を長寿高齢社会の下で安定的に引き継いでいくにはどうしたらいいか、という問題である。

有識者会議が取り纏めた論点整理は、陛下のお気持ちに沿ったものとは言いがたい。その時々々の施政者の思惑に左右されることなく、将来にわたって、多くの国民が納得できる結論に向けて議論を深めることが、いま国会には求められている。

【通信Ⅴ】平成29年3月2日 記

移住就農者から元気もらう

少子高齢化の進む阿南市の加茂谷地区で、関西から移住してきた二組の若い夫婦が、野菜のハウス栽培に取り組んでいる。

彼らが移住することになった経緯はこうだ。同地区で、地域おこしに取り組んでいる住民団体「加茂谷元気なまちづくり会」が、大阪で開催された移住・就農マッチングフェアにブースを出展、ここを訪れた縁で、同会の企画した「加茂谷体験ツアー」に参加。そこで同地区の生活環境、就農形態、空き家視察等を行い、若手移住就農者に対する県の助成制度の説明も聞き移住を決意した。

同会の世話で、農地・空き家を借上げ、営農指導を受けて農業に取り組んでいる。最近本格的な出荷ができるようになったとのことだ。周囲の農家にも若い夫婦の熱気が伝

わって、大いに元気を貰っている。

一組の夫婦は、結婚後暫く子宝に恵まれなかったのが、加茂谷に移住して、昨年12月に出産、「加茂谷の環境と水が良いからでしょう」と喜んでる。まさに実りの季節を迎えている。頑張れ、若夫婦。

同会では今年も3月に加茂谷体験ツアーを実施し、移住者夫婦の野菜園も視察していただく予定で参加者を募集している。人情にあつい、自然豊かな田舎での営農希望者の参加を心待ちにしている。

【通信Ⅵ】平成29年5月28日記

「鯉まつり」に加茂谷の底力

那賀川中流の阿南市加茂谷地区、新緑が映える川面をわたる風に、約300匹の鯉のぼりが気持ちよく泳ぐ姿は壮観だった。今年もこの下で、先日、春のビッグイベントの「加茂谷鯉まつり」が、開催された。今年で29回目で、平成と共に歩んでいることになる。第1回のときには小学校2年生であった息子も、今は世話人の一人として参加している。孫は各種イベントに参加して楽しそうだった。

鯉まつりは、同実行委員会の主催だが、ボランティアとして、中学生から、婦人会、体協、老人会、加茂谷元気なまちづくり会、地区内各町委員会など加茂谷の全組織・団体挙げてのビッグイベントだ。すっかり春の行事として定着し、今回参加者も4500名を数え、加茂谷全人口の倍以上の人出になった。継続は力なりの言葉の通り、親から子へ、子から孫へ、伝承されていく力はすごいものだ。労務のボランティア以外に、加茂谷約700全戸が運営資金を分担して提供している。

ほかにも、協力団体があって「加茂谷平成郷思会」の設立趣旨はこうだ。高齢化で労務提供が体力的に困難になってきたものの、資金面で協力はできると会費を募っている。地区内の各種活動をこうした資金面から援助している奇特新おじさんは、65人。これらのパワーが集約された鯉まつりに加茂谷の底力を見ることができ、また大いに勇気づけられている。

【通信Ⅶ】平成29年6月8日記

空き店舗の課税強化は愚策

地方創生に向けた当面の人口減少対策をまとめた政府の「まち・ひと・しごと創生基本方針」案の全容が明らかになった。中心市街地の空き店舗解消に向け、こうした店舗が立つ土地への課税強化を検討することが柱だ。

空き店舗の課税強化は、自治体が商店街の再生を目指す地域などで、出店希望者への貸し出しや売却を促す狙いがあるという。

果たしてそんなことで借り手が出てくるのだろうか？借り手がなくて空いている。商売が成り立たなくて廃業し、空き店舗になっているのが現状なのではないか。課税強化すれば借り手が出てくる。新しい商売が始まる、その理屈は一体何なのだろうか？いま空き店舗を抱え、商売もまま

ならず苦しんでいる人は、どうすればよいのだろうか。新しい借り手があれば、出ていけということなのだろうか。

そんなことで地域活性化が図られると考えているのなら全くの見当違いだ。今残っている商店街とタイアップし、新しい顧客と出会い、商店街の魅力を知ってもらい、喜んでいただける事業を展開し、地域の活性化に繋がる諸施策を考えるのがまず優先される行政の仕事であろう。それを起点として、いかに空き店舗を解消していくかを考えるべきである。

空き店舗への課税強化は、益々商店街を疲弊させるばかりの愚策以外の何物でもない。国は今一度考え直して欲しい。

【通信Ⅷ】平成29年10月6日 記

これぞ地域が担う人づくり

阿南市中山間地域で地域おこしに取り組む「加茂谷元気なまちづくり会」が、今年も東京の武蔵野大学から、農業体験実習生を、8月下旬から9月中旬にかけて5班に分けて約80名を受入した。

今年は初めての試みとして、1班16名全員を一つの集落、水井町全体で受入した。食事は集会所で自炊、宿泊は農家に分宿した。水井町は加茂谷地区でも小さい方の集落(40戸程度、約100人)である。

農業体験以外に、災害時の防災かまど作り、ホテルの里づくり、農業水路の整備、ドラム缶での炭焼体験、また10月の武蔵野大学学園祭に出展する野菜を育てる武蔵野農園の造成と野菜の種蒔きなども実施した。

無事に事故なく爽やかな若さと元気を置き土産に彼らは帰京していった。寄せられたアンケートを見ると、殆どの学生が次のように書いている。▽自然が豊かで癒される。▽人の優しさと温かさを感じて心が洗われる。▽人と人の距離が近く、近所の人びとが仲が良い。▽地域全体が一つの大きな家族のようで、みんなの助け合いが素晴らしい。

日頃、我々が気づかない、そして普通だと思っていることが、実はとても大切なことなんだと教えられた。この地域で受け入れる農業体験が、彼らの人づくりに少しでも役立てば嬉しい限りだ。これこそ加茂谷発 VS 東京、地域が担う人づくりだ。

【通信Ⅸ】平成29年10月10日 記

安全の基本は 人にあり

N自動車が出荷前完成検査を、無資格者が行っていた問題で、書類上は有資格者の押印をして偽装していた事実が判明した。安全が最優先される車で、このようなずさんな管理が日常的に横行していたとは、言語道断である。

HONDAの創業者、本田宗一郎氏がセミナーで聴講者に質問した。

「車のブレーキは、何のために付いていると思いますか？」
聴講生：「車を止めるためです。常識でしょう！」

本田氏：「それは車をできるだけ速く安全に走らせるためです。車にも色々あります。走ってはいけない三輪車や乳

母車には、ブレーキは付いていません」

本田氏は、高速走行の車を開発するときには、まず、高性能のブレーキを開発することを心がけた、と言っています。車にブレーキが付いていなかったら、スピードは出せません。ブレーキの無い車では、運転できません。

使う人の安全・安心を第一義に考えること、これが企業技術者倫理の基本です。高速車には、高性能のブレーキが必要です。如何に自動操縦になろうとも、自動危険回避装置が装着されようも、それを検査し操作し安全を確保するのは全て人が基本です。

企業技術者は常に実直に、「心のブレーキ」で倫理観を保ちながら、安全を第一義に業務に励んでもらいたいものです。

勝手に書きます！

言いたい放題名作映画紹介

昭和43年度機械

乾

寛

第3回

例年通り今年も洋画、邦画の中からそれぞれ珠玉の1本を紹介します。改めてじっくり鑑賞してから書くわけですが、何度も見ているのにも関わらず、見るたびに何か新しいことを感じます。初めて見た時のアッと驚く新鮮さはもちろんありませんが、今まで見過ごしていた俳優の演技やせりふ、またストーリーの細かい構成のあや(綾)にも気づきます。まさに至福の2時間です(ちょっとおかげですが)。結果は全く対照的ですが、2作とも自分の意志をかたくななまでに貫いた男の物語です。

「ショーシャンクの空に」1994年

フランク・ダラボン監督

ティム・ロビンスモーガン・フリーマン

ショーシャンクとはアメリカの刑務所の名前である。妻殺しの冤罪で収監された若き銀行家が、様々な苦勞に会いながらも、希望を捨てずに綿密な計画を立て、最後には脱獄に成功する、という物語である。一言で言うと単純なのだが、そのプロセスが実に面白い。感動的でもあり、見終わった時の爽快感は格別である。脱出物映画は有名な大作「大脱走」を初めとして数多くあるが、そのほとんどが「脱出」「脱獄」そのものをテーマにしている。もちろんこの映画も脱出自体のウエイトは大きいのだが、テーマは主人公の生き様である。エリート銀行員でありながら、無実の証拠がないばかりに投獄され、群れない性格も災いして刑務官や回りの囚人たちからさまざまな暴力を受ける。こんな生活が永久に続く事を考えると、本来なら自分の不幸を

嘆き、絶望でのたうち回るのが当然だろう。しかし彼は、そのような環境のもとで少しでも可能性を探り出し、残った人生の中に生きがいを見出そうとする。そして最後に、みごとにかつドラマティックにその行動が報われるのである。その時の感動は、「いやあ、映画って本当に素晴らしいですね」とどこかの映画評論家が言っていたことに心からうなずいてしまう。

主人公アンディは自分の特技を生かして、ひよんなこと(まさに命懸けではあったのだが)から看守人たちの節税の手助けをする。彼らにとっては無料で税理士の支援を受けることができるわけだ。そのことがきっかけになり、刑務所内の図書室担当になり、拡充にも乗り出す。予算獲得のために管轄の役所に毎週手紙を出す。実に6年間も出し続けるのである。結果的に少々の予算を獲得するが、さらに毎週2通の手紙を出すことにより最終的には多額の予算を得て本格的な図書館を作り上げることに成功するのである。執念深いというか超長期的な計画をやり遂げる能力というか、まさに驚嘆すべき実行力である。無味乾燥な単調な生活の中でも、何か目標を決めてその実現に邁進する。そのことは間違いなく生きがいにつながる。現実の退職後ののんびりした生活にも言えることであり妙に共鳴してしまう。そしてこのことが最終行動を成功させる、彼の並外れた企画立案、決断力、実行力の大きな伏線になっている。また、彼は基本的には寡黙で静かであるが、友だちや周りの人を非常に大切にす。税理士活動の見返りは収容所仲間への冷えたビールのプレゼントであり、図書館の充実にしても結果的には他の人々に対する公共奉仕のようなものである。このあたりに、彼が本来持っているやさしさ、というか律儀さにつながっており、自然と好感を持ってしまう。そこで親友となるのが、今や黒人の老俳優としてはピカイチのモーガン・フリーマン演ずるレッドであり、彼の二人三脚で物語は進行する。

別のテーマもさりげなく織り込まれている。50年間も収容された後に出所した老人は、余りにも大きく変化した世の中に馴染めず、結局自殺してしまう。入所した当時は監獄を憎むがそのうちに慣れ、最後には依存してしまう。要するに監獄を出ても居心地が悪くシャバでは生活ができない、ということである。長期間収容後の仮出所ということは必要なのか。出所後また刑務所に舞い戻る割合は結構高いと聞いたことがあるが、社会更生できない原因は、犯罪のブレーキが効かない、という本人の性格だけではないのではないか、ということをしりげなく言っているような気もする。

さらには「冤罪」の扱ひも大きなテーマである。この物語の大きな転機は、アンディが犯人とされている事件の真犯人が浮かび上がってきた時である。当然の権利として所長に再審を求めるが、彼は自分の違法な収益を管理させているアンディを監獄から出すことはできない。そして、その証拠を持ち込んできた収容者を射殺してしまうのである。証拠隠滅である。ひどい話だ、と思うが、実は現実の

日本社会でも似たような事件はよく報じられている。大手メディアではほとんど報道はされないが、過去の大事件で、検察側にとって不利な証拠はあえて出さない、ということはあるわけであり、一方的な証拠操作が現実なら裁判の正当性なんてなくなってしまふ。表面化した死刑囚に対する冤罪が何件かあるが、冤罪のまま死刑になった人もいるかも知れない。こんなことは絶対にあってはならないことである。冤罪で死刑を求刑しても、冤罪であったことがはっきりした場合は、求刑側が死刑になってもいいはずだ。無実の人を殺すのであるから殺人犯といっしょである。過激な言い方かもしれないが、国家権力を背景にした、いい加減な判断はするな、ということである。僕は死刑廃止論者ではないが、すべての証拠を提出し、一つでも疑念が残るなら死刑にはしない、という姿勢が絶対に不可欠だ。この映画では、世間から閉鎖された収容所内で、国家権力に守られた違法行為がなんの躊躇もなく行われている。あくまでもフィクションであるがそれなりの警鐘を鳴らしている、とも考えられる。このことでアンディはいつまで経っても無実を晴らすことはできないと悟り、ついに計画してきた脱獄の実行を決断する。

脱獄の場面が最後の山場であるが、その詳細は書かない。書いてしまうと、これから初めてこの映画を見る人の感動を奪ってしまうことになる。今まで書いた内容を参考にして是非この映画を見てほしい。そして映画の面白さを堪能してほしい。昨年、仲間とフレンチアルプスのスキー場に行ったのだが、エール・フランス機内のビデオメニューに、新作映画に混じってこの古い映画があった。まだ見ていない仲間に推薦したのだが、見終わってから「実に面白かった」と感謝された。また、ネットのレビューでも「私の生涯の最高の1本」と言っている人もいる。いい映画であることは間違いない。伏線というか、後から「アッ」と思う場面があらゆるところに散らばっている。当時有名だった往年の女優(リタ・ヘイワース、マリリン・モンロー、ラクエル・ウェルチ)のポスターは主演と言っていいほど重要な役割を果たす。全員セックスシンボリックな女優なのだが、その役割がなかなか象徴的であり思わずニヤリしてしまう。その他、聖書、ロープ、チェスの駒、小型のロックハンマー、磨かれた靴等小道具も見逃さないでほしい。

最後になったが、タイトルについて考えてみたい。原題は「The Shawshank Redemption」であり、「ショーシャンク収容所の贖罪しよくざい」ということだろうか。贖罪というのは、犯罪に対する償い、という意味であり、まさにそのものずばりのタイトルである。またキリスト教での償いの意味もあり、聖書がそれなりに重要な役割を果たしていることから納得がいく。しかし、同様に「債権の買い戻し、約束の履行」という意味もある。両方にかけているのかもしれないが、むしろ後者のウエイトが高いのではないかと。アンディは無実だが、不倫している妻を殺そうと思ひ、実行しようとしたのは事実だった。だから収監そのものは仕

方がない、とあきらめた。これは前者の意味である。ところが余りにも長すぎる収容所生活と無実を晴らすための証拠を消されてしまったことは彼の人生においてかけがえない損失である。収容所長が貯め込んだ賄賂とか違法収入を、自分の企んだ会計処理によって合法的に取り上げて脱獄することは、彼にとっては、いわば失われた人生の取り返しである。こちらの意味が主であろう。ところが邦題は「ショーシャンクの空に」であり、なにか抽象的ではっきりしない。わけの分からないけったいな日本語に置き換えるよりは、原作者を尊重しオリジナルのタイトルのままにすべき、との思いが僕の持論であるが、あえて場面を思い返してみる。図書館用にたくさんの本が送られて来たとき、その中にレコード盤も入っていた。アンディは放送室にそのレコード盤を持ち込み、それを聴く。モーツアルトの歌劇「フィガロの結婚」のアリアである。久しぶりにクラシックを聞いて感激した彼は収容所の他の仲間にも聞かせようとして、放送室をロックし、無断で全所内にその音楽を流す。結果的に彼は独房入りを命じられるのだが、アリアは晴れたショーシャンクの空に舞い上がるように流れていった。また、脱出時は大雨だった。川に抜け出した直後、彼は喜びをかみしめながら両手を挙げてその雨を全身に浴びる。雷鳴とともに大空から降りしきる雨を。このあたりの印象的な場面からこの日本語タイトルが付けられたのだろうが、もっと大きな視点で見たほうがいいのかもかもしれない。ショーシャンク刑務所という、「希望」という言葉が最も不似合いな場所でも、アンディはその空にしっかりと希望を見据えていた、ということではないか。ただ「ショーシャンクの空に希望を」ではあまりにも稚拙で空々しいか…。

「駅 STATION」 1981年 降旗康男監督

高倉 健 倍賞千恵子

高倉健の、最も健さんらしさが出ているのがこの作品と思う。デビュー当初の任侠映画は別として、ちょっと世渡りは下手で要領は悪いが、常に控えめで自分に正直、そして矜持にこだわるという、我々が最も憧れる健さんらしさを余すところなく発揮している。健さんは北海道警察の三上という刑事役である。凶悪犯相手の仕事が縦糸として貫かれている。その内容だけでも結構興奮させられるのだが、それにいろいろな人間模様が横糸としてからまっている。その人間模様というのは「家族」のありようだ。今回見て改めて感じたのだが、この映画は、夫婦、親戚、兄妹、親子という関係の中でのそれぞれの人々の生き方がメインテーマではなかろうか。そしてそれら様々な人生模様が「北海道留萌本線増毛駅」を舞台に繰り広げられる。駅は出会いの場でも別れの場でもある。起点でもあり終点でもあり、確かに人生の節目にふさわしい。

冒頭から別れの場面だ。舞台は1968年の雪が舞う函館本線函館駅（札幌と小樽の中間あたりのローカル駅）。他に誰もいないホームで妙な面持ちの三上刑事が妻と小さい男の子を見送りに来ている。どうも離婚するらしい。オ

リンピックの射撃選手に選ばれ、その重圧で家庭生活がおろそかになり、妻が過ちを犯したらしい。ただ詳細は全くわからない。頑固な健さんは黙って見送る。不協和音から始まる交響曲を連想するような出だしである。許してもらえない切なさを隠し、走り始めた汽車のデッキ（昔の列車には自動扉はなかった）に立ち、敬礼で別れを告げるいしだあゆみは実にきれいだ。家族との楽しい生活より、日本国のためにオリンピックでメダルを取ることを選ばざるを得なかった。本意ではないけれどそうせざるを得なかった。そのことが原因で妻がなにが過ちを犯したらしい。同僚からは翻意を促されるが彼は決して妥協しない。「俺はバカですから」と自嘲気味に言う。日本人特有の、私より公を立てる心情が重く心に響いてくる。その後、円谷幸吉陸上自衛隊員の自殺ニュースが入ってくる。東京オリンピック陸上マラソンで銅メダルを獲得し、次のメキシコでも日本中の期待がかかっていた。そのプレッシャーに耐え切れずカミソリで頸動脈を切った。彼の遺書が朗読されるが、家族親戚それぞれに対して美味しかった食事のお礼だけが延々と書かれていた。せつない。そんなことしか書くことはなかったのか。健さんにはその思いは痛いほどわかったのだろう。己を捨てて公共に尽くす、ましてや公務員である。軽薄なちよいワルおやじとは真逆の性格だ。それが良いとは思わないが、そう思う古風な人には尊敬めいた感じも抱いてしまう。一方では、本質からそれつつあるオリンピックそのものに対する反発もあったのだろうか。

同時に警察官射殺事件が発生し、検問中に三上刑事の目の前で射撃チームのリーダーでもある先輩刑事が犯人に射殺されてしまう。犯人の顔をチラッと見たが結局逃走されてしまう。ここが最後の山場の伏線である。犯人捜査をやりたかったが、オリンピックのために断念させられる。このことはずっとトラウマとして残る事になる。

年月が経過し射撃チームの指導も解かれ刑事業に専念することになり、連続女子暴行殺人事件、銀行立てこもり人質殺人事件等に遭遇し解決していく。前者のケースは兄と妹、後者の場合は母親と息子の関係が強調されている。兄は死刑となるが、三上刑事は逮捕後ずっとなにかと彼を支えてきたらしい。死刑執行当日書かれたお礼の手紙が届く。また、極悪非道の銀行強盗殺人の犯人を現場で射殺するが、息子の投降を訴えていた母親から「人殺し！」と罵倒される。罪を憎んで人を憎まず、なのだろう。因果な商売(?)と思いつつも刑事をやめられない。いや、やめるふん切りがつかない。

この映画の一番の見所は、後半に入って高倉健と賠償千恵子が出会い、心を通わせていく場面だ。大人の恋というか、当時は夢見心地で見ていた気がする。刑事が嫌になり、退職する決心をして、正月に故郷の雄冬に帰ろうとするが強風のため船が出ない（雄冬は島ではないが、当時は国道が開通していなく増毛から連絡船で行かなければならなかったようだ）。仕方なく増毛駅付近の飲み屋「桐子」に入る。年末だから客は誰もいない。まさに神様の引き合わ

せ、とでもいうのだろうか。お互いの心に静かに火がつくのを感じたのだろう。そこでの会話が絶品である。映画博物館に永久保存したいほどの場面である。たわいもない普通の会話である。「どこから来たの?」「雄冬、あんたは?」「歌登」「ああ、知っている。妹が嫁に行ってる。」「そう、一人者じゃないよね、こんないい男。」「今はずっと一人さ」「へえ、仕事は?いや答えなくて、私、当てるの得意だから。営林署関係でしょ。」正確ではないがこんな感じだ。こんな書き方では全く情感が伝わらないと思うが、脚本担当の北海道出身倉本聰の本領発揮の場面である。そして、12月は水商売の女の自殺が急に増える、という話をつぶやく。男が正月に国に帰ってしまうからだ、という。さしつ、さされつ、テレビからは八代亜紀の「舟歌」が流れる。桐子もくちずさむ。実にいい場面である。演技も素晴らしい。何ていうのかなあ、要するに、ものすごく心が安らぐのである。のんびりとくつろいで飲んでいるような気分させてくれるのである。ネットで見かけたのだが、この場面を暗唱している人もいるらしい。それだけ印象深く、人を魅了する場面であることの証拠だろう。そして、これが最後の大クライマックスの序曲でもあるのだ。ところで、それほど有名ではないが中島みゆきの歌に「十二月」という曲がある。まさに桐子が言ったことをそのまま歌詞にしたもので、心に染み入る独特のメロディとともに好きな歌である。この歌の発表は1988年だからこの映画の7年後である。中島みゆきはこの映画を見て作ったのか、それとも単なる重なりか…。そういえば中島みゆきも北海道出身である。

さていよいよ映画は佳境である。桐子といい関係になってきた矢先、初詣の神社で桐子の知り合いの男が現れる。「ああ、やっぱり彼女には男がいたのか」と思ったに違いない。健さんの性格からすれば、無理やり横取りするわけにはいかない。「ああ、失恋か」と思っただろうな。駅で別れる時、「札幌まで付いていこうかな」と言われ「いいよ」と無愛想(?)に答える。もうイライラしてくる。そんなことを言われたなら、強引に連れていくしかないじゃないか。彼女はそれを期待しているのだろうに。あまりの素っ気ない返事に彼女は引っ込んでしまう。思い切り、思いをぶつけて言ったのに、と。ここが健さんのまさに不器用なところだ。また、逆にここが健さんのいいところとも言えるのだが。結局健さんは1人で札幌に立ってしまう。この場面も印象深い。ここで映画は終了か、とも思わせるのだが、何か引っかかることが残っている。完全にネタバレになるのだが、実はその桐子の男が、以前三上刑事の先輩を射殺した犯人だったのだ。ここからの展開が最後の山場である。あえて詳細は書かない。ぜひ楽しんでほしい。

全てが終わる。事件は解決する。桐子の驚きはとても言葉では言い表せないだろう。倍賞千恵子の演技が実にいい。桐子になりきっている。いや僕自身がのめり込んでそう思っているかもしれないが。警察の取り調べで、かくまっているにも関わらずそのことを警察に通報した矛盾点を

かれ、桐子は「男と女ですからね」とつぶやくが、この言葉には、人間関係の不条理さが全て含まれているような気がする。なんとも奥深い言葉である。桐子の心の中は二人の男ではち切れそうになっていたに違いない。そんな事件の直後でも桐子は店を開いていた。最後にまた三上刑事は、躊躇しながらも居酒屋「桐子」の縄のれんをくぐる。あいかわらず客は誰もいない。このふたりの胸中はどうなだったろうか。涙があるわけではない。淡々とした会話…。この数日間のできごとは一生にも値するぐらいドラマティックだったろう。いや、夢を見ていたのか、と思うかもしれない。「健さん、なぜ桐子を強引にでも連れて行こうとしないのだ、バカ。」と言いたいが聞こえるはずもない。映画は安易なハッピーエンドには決してたどり着かない。再び健さんは雪の増毛駅から最終列車にひとりで乗る。退職願は破り捨てる。思い通りにならない想いを抱きながら刑事を続けていこうと決めたのだろう。淋しいなあ。おりしも、死刑になった殺人犯の妹も同じ列車に乗る。好意を持っていたらしい駅員に「札幌で働くことにしたの」と告げていた。彼女も過去を捨て新しい世界に旅立つのだ。汽笛を残し、赤いテールランプはゆっくりと小さくなっていく。いつまでも、いつまでもラストシーンは続く。八代亜紀の「舟歌」が終わるまで…。見終わってため息が出る映画である。

数年前、自転車で日本一周した時、当然増毛駅に立ち寄った。1日に数本の列車しか運行しておらず寂れた駅だった。映画の舞台であった駅前食堂の「風待食堂」の外観は残っていたが、中は土産物売り場になっていた。アルバイトらしき女子高生が1人で店番をしていた。髪の毛が増えるようにと、祈願札として入場券を売っているのには笑ってしまった。その時、彼女に「観光対策として、倍賞千恵子に似た人を連れてきて居酒屋『桐子』を開業したらどう?」と勧めた。適当にあいづちを打って、ただ笑っているだけだったし、そのままだったのだが、先日北海道のかつての同僚から報告があった。増毛駅構内に「桐子」のセットがそのまま復元されたそうだ。写真も送ってきたが、まさに映画のシーンそのままだ。ところが残念ながらセットのみであり実際には営業はしていないらしい。いい観光資源なのに。僕が増毛町長か観光課長であれば絶対に営業するのだが。そして常時「桐子」のシーンを大型スクリーンで流す。ただ人口減少の中では成り立たないか。昨年(2016年)のまさに12月、留萌本線の廃線とともに廃駅となってしまった。いつか「桐子」に行ってみよう。



赤い手帖 (27)

昭和45年度電気 森田 虔児

アテネオリンピック(2004年)の何年か前に、ギリシャを訪れたことがある。宿泊したホテルは、大きな通りを隔ててアクロポリスの丘に向き合っており、高層階の部屋からは、夜間にライトアップされたパルテノン神殿の全体がほぼ真正面に見えた。ベランダに出てデッキチェアすわに坐り、ふと見下ろすと、ホテル中庭の夜間照明に照らされたプールでは、ひと組の若い外国人のカップルが、エメラルド色に透き通った幻想的な水面に浮かんで、仲睦まじく、かつ悠然ゆうぜんと泳いでいた。ホテル周りの道路を車のヘッドライトが、思い出したように時々通過する瞬間を除くと、街全体がいかにも静寂の中にあった。その数日間は、観光旅行として期待通りの別世界に浸れた心地がした。

その翌朝は、現地では平日に当るので、宿泊していた街でも、地下鉄の駅や勤務先等に向かうのであろう人々の流れに気付いた。小生は、当地が観光立国であるという先入観わづわが災いして、ギリシャにも企業や工場が存在し、かつ朝夕の通退勤ラッシュもあるという現実を、何と完全に失念してしまっていた。ただ、この朝の時間帯の風景からは、さほど喧騒感けんそうがないのは、いかにもギリシャらしいと思えた。

この当時(2000年代初頭)のEU圏内の失業率を比較すると、英国の数値には及ばないものの、ギリシャやスペインが突出して悪かった訳ではなく、意外にもドイツの失業率だけがやや高かったように見受けられた。ところが時を経た、2013年頃の失業率をみれば、ドイツが英国以上の数値に改善された(約5%)のと対照的に、スペインと並んで、ギリシャは何と26%前後へと大幅に悪化してしまった。多分このころの特徴だと思うが、ときの政権についた政党が公務員枠を増やして就職率を上げようとした結果、ギリシャでは公務員が人口の一割にまで達したらしい。正確なことは不明だが、公的部門で働く層の件費が、税収の半分を占めるような財政危機を招いたとも聞く。

このような財政赤字の国々を包含したEU(欧州連合)圏内における、昨年来の英国のEU離脱の動きを始め、直近ではスペインからのカタルーニャ州の独立宣言等、同一地域内・国内での格差や負担の不公平感を発端とする騒動や、ひいてはこれらに関連するテロの発祥などは、実は数十年スパンの過去において、すでにその兆しが芽生え、じわじわと拡散蔓延して来た結果のようである。

なぜ唐突に、15年以上昔のギリシャ旅行なんぞを思い出したかには訳がある。10月末までに、小生の自動車運転免許証を5年振りに更新する必要があったところ、2歳になったばかりの孫(男児)に、抱っこすわの折り、メガネを“破戒”されてしまったのである。予備のメガネは何年か前の温泉旅行で表面を劣化させてしまっており、このところ日常生活では、ギリシャ旅行当時使用していた(色つきガラスが磁気で着脱可能な)サングラス形態の観光用メガネの本体側(度つきレンズ側)を急遽活用していた訳である。ただ免許証の更新ともなれば、その15年以上昔のメガネでは、視力検査で不合格となる可能性があったので、これを機にメガネを新調したという経緯いきさつがあったのである。

8月末には、同居している息子に第2子が誕生し、何と我が家は6人家族になった。幸い小生の車が7人乗りであり、多少の荷物があっても、1台の車で一家全員が揃った移動も可能なことが確認できた。差し当たって10月初旬には、お宮参りに鎌倉の鶴岡八幡宮へ出掛けた。

2番目の孫の出産前後の数カ月間は、息子のお嫁さんの受診・検診の送迎や、1番目の孫の(週に2つの)習い事の付き添いも加わり、より多忙となりそうであったので、その少し前の7月の好天に恵まれた日を見計らって、「鎌倉の三大洋館」のひとつとされる「旧華頂宮邸」を初めて訪れてみた。その場所は、鎌倉文学館(旧前田侯爵家の別邸)のように、海に開けた高台すそに位置している訳ではないが、報国寺裏の閑静な山裾すそにひっそりと在り、人工的な平面の庭(フランス式庭園)が、建設当時流行していたと謂われるハーフティンバー型式の洋館とよく調和していた。入場料が取られる観光施設でもなく、平日とはいえ他に誰も見物客が居ないところをひとり徘徊し、大正から昭和初期の頃の雰囲気堪能した。例えば、近場ではウイードリッヒの森とか、江の島のサムエルコッキング苑や、長崎のグラバー邸など、日本の観光資源ないし歴史上で著名な施設は少なくないが、鎌倉の三大洋館は、西洋文化の模倣とは言え、日本人である住人の感性に基づいて設計・構築された点に見るべきものがあると思う。機会があれば、次は扇ガ谷にある古我邸を訪ねてみたい。

9月中旬に東京で所要があったついでに、上野まで足を延ばしアルチンボルト展を開催中の国立西洋美術館のぞを覗きに行った。40年振りくらいの入館であり、どちらかと言うと常設展の方にも興味を覚えたが、序に前庭の「地獄門」や「カレーの市民」等もしみじみと鑑賞した。「カレーの市民」については、小学六年生の時に、クラブ活動で校内新聞を立ち上げた際、時代背景も知らないまま、無謀にも記事として取り上げたことを思い出し、懐かしかった。まだロダンの作品については、原型を鑄造したものが世界中に複数存在するという点にも、今更ながら気付かせて貰った次第である。

最近、一家6人で外出する場合は、小生が孫一人の子守りを担当するケースが増えた。商店街やデパートの雑踏では身動きがし辛いので、孫の御機嫌が麗しい日には、子連れのまま、その近傍の美術館を訪ねることにしている。今年、「春の院展」、「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」や「平山郁夫シルクロードコレクション展」などに行ってみた。

ところで今夏、小樽の石原裕次郎記念館が閉館されるニュースが報じられた。ちょうど没後30年に当たり、施設などを管理する体制の問題だけでなく、入館者数と維持費の間に乖離が生じてきたようである。一方で、没後100年を超えた夏目漱石の、「漱石山房記念館」が、この9月末に新宿区早稲田の漱石自宅跡地にあらたに開館したようである。この両者とも約50年の充実した人生を送り、それぞれが各時代の寵児であったが、活躍した世界が、芸能

界・文学界と異なる故か、象徴的な事象に思えた（漱石には、言文一致体の作品という、時代を超えた強みはあるが）

現役を離れて大分経ったこともあり、このところ自宅への郵便物の殆どは家内や息子宛てである。ごく最近では、同居している2人の孫宛てにさえも幼児教室や役所発の便りが届くようになった。また10年以上乗り続けた小生の車を、来春の車検を待たずに今月（11月）に売却した。現用車のディーラーと整備工場には、30年以上お世話になってきたが、出荷検査の混乱で納車が遅延する恐れのある国産車の購入は避け、家内の名義でドイツ車を買うことにした。新車の購入費用や、自動車保険料も家内が負担することになったので（現用のもう1台は、すでに息子名義で2年前に調達済み）、自家用車に関しても、小生は「乗せて（運転させて）貰うだけ」の存在になった。



とも故人になられている。そして阿南共栄病院も近くであり、同級の中川荘二とはよく会うらしい。できれば病院では会いたくないものだ。

4月22日「本屋大賞」

今年の本屋大賞に恩田陸の「蜜蜂と遠雷」が決まった。今や、直木賞や芥川賞の受賞作品より、本屋大賞の方がよく売れるとのこと。直木賞とか芥川賞と聞いただけで、敷居が高いというか、正座して読まなければいけないような気がする。その点、本屋大賞は寝転がって気軽に読め、それでいて結構内容も濃くおもしろい。

3月26日「徳島マラソン」

今年で10回目の開催になった。私は5年前からボランティアとして参加している。私の受け持ち地区はゴールにあり、去年から出場ゴールした選手に「うどん」の接待をしている。うどんを食べに来るよと呼び込みをしていたら、たまたま阿南高専校長の寺沢先生を見つけた。なんと3時間16分24秒で完走したとのこと。これはものすごい記録である。

3月30日「羽ノ浦町」

学生時代、毎日「羽ノ浦駅」に列車は停まったが、一度も降りたことはなかった。今日、二女一家が北島町から羽ノ浦町に転居することになり手伝いに行った。軽トラに家財道具を積み込み、羽ノ浦町のアパートに着いたが、昼前には降りし終えた。

偶然、同級の繁田君の店の看板を見つけたので寄ってみた。ちょうど店におり、しばらく話をしたが、娘の借りたアパートの家主が井谷先生（体育）だとわかった。また三木先生（数学）の家も近くにあるという。残念ながら2人

6月9日「上皇」

天皇陛下が平成30年でもって引退されることを検討していることが発表された。まだ正式ではないが天皇も皇后も高齢になられ、公務に体力がついていけないというのが一番大きな理由だと思われる。そして皇太子が次の天皇となり、陛下は「上皇」になるらしい。

「上皇」などという文字は歴史上の文字で、普段目にすることはない。もしかしたら200年、300年後の高校入試問題に「次の天皇のうち、上皇になったのは誰か。次の3人の中から選べ」などというのが出るかもしれない。

8月12日「帰巢本能」

阿南高専悠久同窓会の総会が行われた。会の始まる前に阿部君（17期）の「橋の補強」という題で講演があった。興味深い話だった。そのあと本会議になった。来年創立50周年を迎える同窓会の記念事業をどのようにするかが一番大きな議題になった。具体的な話は出なかったが、実行委員長に安平君（7期）、補佐役に横手君（14期）、星

場君（30期）などが選出された。もっとも、同窓会長の兼松君（11期）、徳島支部長の日出君（7期）、いままでずっと同窓会の世話をしてくれている湯城先生と田中先生がまとめ役として活躍してくれると思う。

去年もそうだったと思うが、今年も1期2期生がたくさん出席していた。

サケという魚は川で生まれ、海に下り、そこで大きくなり、最後はまた生まれた川に帰ってくるという。阿南高専生にとっては、この校舎が生まれた川のようなもので、なんかサケの一生に似ていると思った。

8月15日

関西地方のラジオでは「金鳥」のコマーシャルが今人気がある。高山さん（女）と大沢君（男）という2人の高校生の淡い恋を会話にして、ラジオから流れてくる。昨日の朝、高山さん役の女優（実際も高校2年生）が毎日放送ラジオの生番組に出演した。そして今日のスポニチ芸能欄に出演風景が大きく載った。

この番組のパーソナリティが大喜びして、ラジオから「皆さん、一刻も早く、コンビニに行ってスポニチを買ってください」と宣伝したものだから、大阪地区のコンビニのスポニチの売り切れが続出した。当然私も買った。66才になるが気持ちは15才のままである。（後日談・この記事を書いた記者は大阪支社長から表彰されたとのこと）

9月15日「ミサイル」

このところ北朝鮮がたびたびミサイル発射実験をしている。今朝は北海道上空を通過、襟裳岬沖 2200 kmの太平洋上に落下した。発射から、わずか19分で3700 km飛んだことになる。ということは1分で200 km、1秒で3.3 kmの速さである。

音速の10倍で飛ぶミサイルを、自衛隊のパトリオットで撃ち落とせるとは、とうてい信じられない。今は話し合いで決着してくれることを祈るのみだ。

9月21日「コウノトリ」

この3月に鳴門市大麻町で生まれたコウノトリ3羽のうち1羽が兵庫県三木市で見つかったとのこと。半年で「巣立ち」をしたことになるらしい。生まれてから、この3羽の状況は徳島新聞で逐一報道されている。

徳島では、シラサギとかアオサギがどこにでもいるが、新聞に出ることはまずない。遠くから見ると、コウノトリもあまりかわらないと思うのだが。もっともシラサギやアオサギにしてみたら、足に輪を付けられ、四六時中見張られているより自由があつていいのかもしれない。

9月25日「シャンシャン」

2、3日前我家に生後2ヶ月くらいの子猫が迷い込んできた。たぶん前の飼い主が、大きくなり、自力で生きていけると思って捨てたのだろう。今我家には7才のオス猫がいるが、この子猫がうちに来たのも、なにか縁があつたのだろうと思い飼うことにした。

今年の夏前に上野動物園で29年ぶりにパンダが生まれ「シャンシャン」と名付けられた。名前を考えたが同じメスなのでうちも「シャンシャン」にした。だいたい人間でも、その時の有名な芸能人とかスポーツ選手の名をよく付ける。猫もそれでいいだろう。

10月6日「蚊帳の外」その②

去年の悠久同窓会徳島支部のゴルフコンペは鈴木さん（3期）、松原（4期）、中井（4期）と私の4人でプレーした。そのとき、このメンバーで時々ゴルフをしようということになった。そして今日はサンピアGCで、今年3回目のコンペとなった。今回は中井が欠席したため、電気1期の小出さんに来てもらった。

成績は小出さん、鈴木さんが80台、松原が90台だった。私は相変わらずで109だった。蚊帳の外にはかわりないが、蚊帳の裾に近づけたと思う。

よろず
伝言板

「同窓生の声」募集

本校も独立行政法人となり、現在、様々な対策を取って教職員一丸となっております。しかし、教職員の智恵だけでは不十分な点もあろうかと存じます。本校発展のために同窓生の皆様のお知恵も拝借することができましたらこれほどありがたいことはありません。『悠久』や本校のホームページ等をご覧になってお気づきの点がありましたら何なりと左記連絡先までご連絡い

ただけましたら幸いです。高い見地からの皆様のご意見をぜひお寄せください。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】 阿南高専学生課

阿南市見能林町青木265

TEL 0884-23-7132

FAX 0884-22-4232

MAIL dosokai@anan-nct.ac.jp

現役クラブだより

…体育部…

弓道部

弓道部は、本年度16名の新入部員を迎え、毎日放課後、はつらつランド弓道場で賑やかに練習に励んでいます。本年度は、キャプテンの板東君を中心に練習に取り組み、全国高専弓道大会で棚橋さんが女子個人準優勝し、遠山君が男子個人準優勝と射道優秀賞を受賞するなど昨年に引き続き好成績を収めることができました。また、折野さんが国民体育大会青年の部で徳島県選手に選ばれ活躍してくれました。今後とも、部員が一丸となり射技と的中の向上に励んでゆきます。

弓道部の平成28年12月～平成29年11月までの活動状況をお知らせします。

顧問	西野（機械）、坪井（一般）、吉田（機械）、勝藤（一般）、安田（機械）
部員	5年生9名、4年生8名、3年生8名、2年生6名、1年生16名
部長	遠山 秀（4C） 低学年キャプテン 板東璃音（2I）
練習時間	月～金の放課後（16時30分～18時）

最近の主な試合成績は次のとおりです。

◆第21回徳島県高等学校春季遠の大会

（2月25日、鳴門総合運動公園弓道場）

男子個人 第3位 荒井誉麗（3E）

◆第4回春季中四国高専弓道大会

（3月10日、阿南工業高等専門学校はつらつランド弓道場）

男子団体 準優勝（山本、池下、井上、坂東、荒井、西岡）

女子団体 準優勝（小原、郡、棚橋）

男子個人 準優勝 荒井誉麗（3E）

第3位 池下大翔（5E）

女子個人 第3位 棚橋咲紀（3I）

◆第3回全国高等専門学校弓道大会中四国予選

（7月8日・9日、島根県立武道館弓道場）

女子団体 準優勝（郡、福本、棚橋、小原）

男子団体 第3位（坂東、井上、西岡、山本、程野）

男子個人 準優勝 遠山 秀（4C）

女子個人 第4位 棚橋咲紀（3I）

◆第4回全国高等専門学校弓道大会

（8月30日・31日、茨城県武道館弓道場）

男子個人 準優勝 遠山 秀（4C）

女子個人 準優勝 棚橋咲紀（3I）

男子個人 射道優秀賞 遠山 秀（4C）

◆平成29年度阿南市体育大会・弓道競技

（10月15日、B&G那賀川海洋センター武道館）

団体戦 優勝 阿南高専H（荒井、池下、遠山）

準優勝 阿南高専A（山本、西岡、坂東）

個人男子 優勝 池下大翔（5E）

第4位 遠山 秀（4C）

第5位 坂東璃音（2I）

第9位 西岡 巧（2Z）

個人女子 優勝 折野未歩（4C）

◆平成30年射初め式

（1月6日、鳴門総合運動公園弓道場）

高校の部 男子個人 第3位 坂東璃音（2I）

成人2段以下の部 優勝 折野未歩（4C）

（弓道部顧問 西野精一）

テニス部

テニス部は現在総部員数42名で、1年生4名が新たに部員として加わりました。トレーナー講習は3年目を迎え、県トレーナー協会会長山田佳宏氏により体幹・ストレッチなどの身体能力を高めるトレーニングを実施し、少しずつですが定着しつつあります。香川県への遠征や県内実力校との練習試合と練習を交互に繰り返し、フィードバックによる身体能力と技術の向上を図っています。平成23年度から継続しシオンテニスクラブ河野一郎・阿紀子両氏に多大なご尽力を頂き、春の県高校総体団体6年連続3位入賞（男子4回・女子3回）、女子シングルス3位入賞の成果が出ております。夏季においては、四国地区高専大会では男子団体4連覇を達成、全国高専大会では四国高専初の団体優勝の偉業を達成し、女子ダブルスも3回目の全国優勝を成し遂げ、男子ダブルスは2連続準優勝を獲得しました。秋の県高校新人大会でも女子シングルス3位に入賞しました。一方、県高校新人大会男子団体はシードが獲得できず、惜しくも5年連続3位入賞は達成できませんでしたが、来年度県高校総体団体3位入賞を目指して、男女ともに練習に励んでいます。

なお、平成30年度は全国高専大会がOBやOGと多くの思い出のある「熊本パークドーム」で開催され、男子団体初の2連覇へ向け、チームの絆をテーマに躍進していきたいと思っています。また、高校総体団体（大神子）をはじめ、四国選手権（徳島・大神子）にも来場して頂き、先輩の熱い応援をお願いできればと思います。

平成28年12月～平成29年12月までの活動状況をお知らせします。

主顧問 原野（機械）

顧問・コーチ

高岸（技術部）、大北（機械）、小曾根（化学）、長田（建設）、小林（電気）

部員 5年生8名、4年生9名、3年生10名、

2年生9名、1年生4名

部長 男子 藤本優輔 (4I)
 低学年キャプテン 今川雄斗 (2Z)
 女子 瀧根風香 (3M)
 低学年キャプテン 森吉瑛里子 (2Z)
 練習時間 月～金の放課後 (16時30分～19時)
 土 (9時～12時)

平成28年12月～平成29年12月までの主な試合成績は次のとおりです。

◆第52回全国高等専門学校体育大会 (千葉)

団体 優勝
 今川 (2Z)・大西 (4C)・村口 (5E)・佐藤 (3M)・藤本 (4I)・芝井 (4M) (四国地区高専初)
 女子ダブルス 優勝 (瀧根風香 (3M)・森吉瑛里子 (2Z) (大会3回目)
 男子ダブルス 準優勝 (村口巧 (5E)・佐藤良祐 (3M) (大会2年連続)

◆第54回四国地区高等専門学校体育大会

完全制覇 (全種目優勝)
 男子団体 優勝
 (今川 (2Z)・村口 (5E)・大西 (4C)・藤本 (4I)・多田 (3D)・下川 (5S)・小島 (5M)・佐藤 (3M)・吹上 (4E)・溝渕 (4M)) (4連覇)
 男子シングルス 優勝 今川雄斗 (2Z) (初)
 男子ダブルス 優勝 村口 (5E)・佐藤 (4M) (4連覇)
 女子シングルス 優勝 瀧根風香 (3M) (3連覇)
 女子ダブルス 優勝 瀧根風香 (3M)・森吉瑛里子 (2Z) (3連覇)



◆第57回徳島県高等学校総合体育大会

男子団体 第3位 (柏木 (3M)・多田 (3I)・今川 (2Z)・佐藤 (3M)・梶野 (3E)) (4年連続)

◆平成29年徳島県高等学校新人テニス大会 (高校選抜県予選)

女子シングルス 第3位 森吉瑛里子 (2Z)

◆全日本テニス選手権徳島県予選

女子シングルス 準優勝 瀧根風香 (3M)

◆2017県シングルス選手権

女子シングルス 準優勝 森吉瑛里子 (2Z)

◆2017年徳島県冬季ジュニアテニストーナメント

女子ダブルス 第4位 森吉瑛里子 (2Z)・加藤唯菜 (2M)
 女子シングルス 第3位 森吉瑛里子 (2Z)

◆表彰 (平成28年度戦績) 阿南市テニス協会・阿南市体育協議会・四国高専体育協議会などからも表彰

優秀団体賞 奥 荘介・新見 悟・古川敦史・村口 巧・今川雄斗・藤本優輔 (全国高専大会準優勝)
 優秀選手賞 奥 荘介・村口巧 (全国高専大会男子ダブルス準優勝)
 優秀選手賞 吉原千尋・瀧根風香 (全国高専大会女子ダブルス準優勝)
 優秀指導者賞 高岸時夫 (全国高専大会団体準優勝監督) (テニス部顧問 原野智哉)



第52回全国高等専門学校体育大会 平成29年8月25日 (千葉エストーレホテルアンドテニスクラブ) 男子団体初優勝、女子ダブルス優勝 (3回目) 記念

陸上競技部

陸上競技部の現況をご報告します。平成29年度の陸上競技部は、新入部員 (一年生男子9名) を加え、主将の野口佑大 (3C) 君を筆頭に、選手27名 (うち女子4名)、女子マネージャー2名の総勢29名でスタートしました。顧問教員は、一名交代となりましたが、5名体制 [谷中俊裕 (一般教養: 英語) 先生、藤居岳人 (一般教養: 哲学) 先生、松尾俊寛 (一般教養: 物理) 先生、赤山幸太郎 [新] (一般教養: 英語) 先生、伊丹 伸 (機械コース)] を維持しています。

さて、平成29年の陸上競技部の活動状況ですが、昨年以上の大活躍をしました。主な戦績を挙げてみると、男子三段跳で阿南高専陸上競技部所属の選手としては2年ぶりのインターハイ出場&阿南高専陸上競技部史上初の国体出場、第

52回全国高専大会陸上競技においては、男子総合6位入賞および男子200mと女子100mH (大会新記録樹立) の2種目で優勝、第54回四国地区高専大会陸上競技においては、総合優勝 (2連覇) および10種目の優勝 (1種目で大会新記録樹立)、徳島中長距離記録会においては、男子5000mで14分台の阿南高専陸上競技部史上初の快挙を達成、第63回徳島駅伝においては、阿南高専陸上競技部史上初の区間賞を獲得したことなどです。もうこれ以上の活躍は当分できないと言えるくらい部員達は頑張ってくれました。それを裏付けるかのように、平成29年徳島県一般および高校陸上競技ランキング (徳島陸上競技協会ホームページ <http://www.jaافتokushima.com/>) に掲載されていますので、興味

がある方はご覧ください)に部員14名が、24種目にランクインし、そのうち12種目でランキング上位(3位以内)に名前を連ねています。以下に平成29年に出場した大会(主要大会のみ)での上位入賞者をピックアップしてありますので参照ください。

平成30年の目標としては、2年連続のインターハイ出場、四国地区高専体育大会陸上競技の総合3連覇、全国高専体育大会陸上競技の複数の個人種目での表彰台、四国地区高専駅伝大会の優勝を目指しています。平成29年や平成28年以上の活躍は難しいかもしれませんが、精一杯頑張りたいと思います。OB&OGの皆さん、これからも阿南高専陸上競技部への御支援、御指導ならびに応援よろしくお願ひいたします。

《一年間の主な成績(平成29年1月~12月まで)》

◆第63回徳島駅伝 平成29年1月4日~6日

(南方[那賀]コース、北方コース、西方コース)

小松島市代表 大平祐生(4C)

第5区(6.1km) 20'48" 第1位

第24区(8.9km) 28'49" 第4位

小松島市代表 島田史也(2M)

阿波市代表 相原孝俊(3Z)

第13区(7.2km) 26'28" 第13位

勝浦郡代表 久保田直樹(5E)

第11区(9.7km) 32'29" 第9位

◆平成28年度第4回徳島県陸上競技強化記録会

平成29年3月25日(ポカリスエットスタジアム)

男やり投 第1位 麻植一輝(5M) 59m10

◆第39回徳島陸上競技カーニバル

平成29年4月8日~9日(ポカリスエットスタジアム)

男400mH 第1位 北原右京(5C) 55"12

男三段跳 第2位 谷 亮磨(3C) 13m14

女100mH 第3位 新居鈴菜(2C) 16"31

〈阿南高専新自己新〉

◆2017第1回徳島中長距離記録会

平成29年4月16日(ポカリスエットスタジアム)

男3000mA組 第4位 大平祐生(5C) 8'53"13

〈阿南高専新自己新〉

◆平成29年度徳島県高校陸上競技記録会

平成29年4月23日(ポカリスエットスタジアム)

男三段跳 第1位 谷 亮磨(3C) 13m55

◆第88回徳島県陸上競技選手権大会

平成29年5月4日~5日(ポカリスエットスタジアム)

男100m 第2位 宮田将吾(5C) 10"99

男800m 第2位 大平祐生(5C) 1'58"22

男110mH 第2位 北原右京(5C) 15"53

男400mH 第1位 北原右京(5C) 54"92

〈阿南高専新自己新〉

男三段跳 第2位 谷 亮磨(3C) 13m58

◆平成29年度第1回徳島県陸上競技強化記録会

平成29年5月14日(ポカリスエットスタジアム)

男110mH 第1位 北原右京(5C) 15"58

男三段跳 第1位 谷 亮磨(3C) 13m68

◆第57回徳島県高等学校総合体育大会陸上競技

平成29年6月3日~5日(ポカリスエットスタジアム)

男800m 第5位 野口佑大(3C) 2'03"30

男5000mW 第3位 島田史也(3M) 26'48"23

〈阿南高専新自己新〉

男棒高跳 第1位 谷 知篤(11) 3m80

男走幅跳 第3位 谷 亮磨(3C) 6m63

5回目6m57(自己新)

男三段跳 第3位 谷 亮磨(3C) 13m82

女100mH 第6位 新居鈴菜(2C) 15"29

〈阿南高専新自己新〉

女七種競技 第2位 新居鈴菜(2C) 3805点

〈全国高専新阿南高専新自己新〉

◆第70回四国高等学校陸上競技対校選手権大会

平成29年6月17日~19日(ニンジニアスタジアム)

男5000mW 第6位 島田史也(3M) 23'46"66

〈阿南高専新自己新〉

男三段跳 第4位 谷 亮磨(3C) 14m43

〈阿南高専新自己新〉(インターハイ出場権獲得)

◆秩父宮賜杯第70回西日本学生陸上競技対校選手権大会

平成29年6月30日~7月2日(エディオンスタジアム広島)

男100m予選 宮田将吾(5C) 10"83

〈阿南高専新自己新〉

◆第54回四国地区高等専門学校体育大会陸上競技

平成29年7月8日~9日(西条市ひうち陸上競技場)

総合 第1位(2連覇) 得点:120点

男100m 第1位 宮田将吾(5C) 10"93(大会タ)

第2位 北原右京(5C) 11"55

予選 11"28(自己新)

男200m 第1位 宮田将吾(5C) 21"94

〈阿南高専新自己新〉

第3位 北原右京(5C) 22"77(自己新)

男400m 第2位 泉 晃平(5E) 51"45(自己新)

第3位 伊丹 航(3E) 52"18(自己新)

男800m 第1位 大平祐生(5C) 1'56"27(2連覇)

男1500m 第1位 大平祐生(5C) 4'03"64(3連覇)

男5000m 第1位 大平祐生(5C) 16'11"61(2連覇)

男110mH 第1位 北原右京(5C) 15"49(2連覇)

男4×400mR 第1位

泉(5E)、大平(5C)、北原(5C)、伊丹(3E)

3'22"08(大会新阿南高専新)(2連覇)

男走高跳 第2位 高橋智大(5M) 1m70

男走幅跳 第1位 谷 亮磨(3C) 6m45

第3位 宮田将吾(5C) 6m41(自己新)

男三段跳 第1位 谷 亮磨(3C) 13m53(2連覇)

第3位 大前 歩(14) 12m61(自己新)

男円盤投(1.750kg) 第3位 海部登井(4C) 28m33

男やり投 第3位 高橋智大(5M) 46m45

女100m 第1位 藤井佑衣(2Z) 13"56

女走幅跳 第2位 新居鈴菜(2C) 4m88

女砲丸投 第2位 新居鈴菜 (2C) 8m12

◆平成29年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会
秩父宮賜杯第70回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
(南東北インターハイ)

平成29年7月28日～8月2日(NDソフトスタジアム山形)
男三段跳 予選 谷 亮磨 (3C) 13m73

◆第72回国民体育大会徳島県選手最終選考会

平成29年8月13日(ポカリスエットスタジアム)
男成年100m 第2位 宮田将吾 (5C) 10"77
(阿南高専新自己新)

男少年共通三段跳 第1位 谷 亮磨 (3C) 14m01

◆第52回全国高等専門学校体育大会陸上競技

平成29年8月26日～27日(長野県松本平広域公園陸上競技場)

男子総合 第6位 得点:41点

男100m 第2位 宮田将吾 (5C) 10"69

男200m 第1位 宮田将吾 (5C) 21"97

男1500m 第2位 大平祐生 (5C) 3'55"46
(大会新自己新)

男110mH 第4位 北原右京 (5C) 15"29 (自己新)

男4×400mR 第7位 3'26"38

泉 (5E)、大平 (5C)、北原 (5C)、伊丹 (3E)

男棒高跳 第6位 谷 知篤 (11) 3m80 (自己タ)

男走幅跳 第6位 谷 亮磨 (3C) 6m54

男三段跳 第4位 谷 亮磨 (3C) 13m74

女100m 第4位 藤井佑衣 (2Z) 13"25

女200m 第7位 藤井佑衣 (2Z) 27"39 (自己新)

女100mH 第1位 新居鈴菜 (2C) 15"35 (大会新)

女走幅跳 第6位 新居鈴菜 (2C) 4m90

◆第47回徳島県高等学校新人陸上競技大会

平成29年9月18日(ポカリスエットスタジアム)

男棒高跳 第1位 谷 知篤 (11) 3m80 (自己タ)

男三段跳 第3位 大前 歩 (14) 12m87 (自己新)

女100mH 第3位 新居鈴菜 (2C) 15"39

◆第72回国民体育大会陸上競技大会

平成29年10月6日～10日(ニンジニアスタジアム)

男少年共通三段跳 第19位 谷 亮磨 (3C) 14m19

男成年共通4×100mR

準決 谷 亮磨 (3C) [4走] 41"95

◆第19回四国高等学校新人陸上競技選手権大会

平成29年10月14日～15日(Pikaraスタジアム)

女100mH 第6位 新居鈴菜 (2C) 15"71

◆2017第5回徳島中長距離記録会

平成29年10月14日(ポカリスエットスタジアム)
男3000m A組

第1位 大平祐生 (5C) 8'39"22
(阿南高専新自己新)

◆第6回徳島陸上競技秋季カーニバル

平成29年11月3日(ポカリスエットスタジアム)

男棒高跳 第3位 谷 知篤 (11) 3m90 (自己新)

◆第24回ひろしま県央競歩大会2017

平成29年11月26日(東広島運動公園陸上競技場)

男高校5000mW 第31位 島田史也 (3M) 22'24"98
(阿南高専新自己新)

◆2017第6回徳島中長距離記録会

平成29年12月2日(ポカリスエットスタジアム)

男5000m A組

第6位 大平祐生 (5C) 14'57"28
(阿南高専新自己新)

(陸上競技部顧問 創造技術工学科機械コース 伊丹 伸)



第54回四国地区高等専門学校体育大会陸上競技
総合優勝 [2連覇]
平成29年7月8日～9日(西条市ひうち陸上競技場)



…文化部…

吹奏楽部

部員	計21名
	5年生6名、4年生6名、3年生3名
	2年生3名、1年生3名
顧問教員	錦織浩文（一般教養） 安野恵実子（情報コース）
練習時間	月～金曜日の放課後（14時30分～19時） 合奏練習は主に火・水曜日
練習場所	学生集会所（第2体育館横）

今年度の活動を振り返ってみます。

4月5日 入学式

「INVICTA」「君が代」「校歌」「恋（星野源）」

4月27日 部室コンサート～新入生歓迎

「INVICTA」「ウィーアー！」「恋（星野源）」

9月1日 杜のホスピタル（旧藤井病院）訪問演奏（7回目）

「そばかす」「前前世」「島唄」「津軽海峡冬景色」など

11月11日～12日 蒼阿祭（阿南高専第一体育館）

「全力少年」「ウィーアー！」「ハレ晴れユカイ」

「ムーンライト伝説」など

12月10日 四国地区高専総合文化祭

（新居浜市市民文化センター）

「ウィーアー！」「そばかす」「ハレ晴れユカイ」

「勇気100%」「銀河鉄道999」

1月21日 徳島県アンサンブルコンテスト出場

管打楽器四重奏（Tp.A.Sax.Hr.Per.）

「劇音楽「アブデザラザール」組曲より」

5年生が多数卒業し、今年度は少人数でのスタートとなりました。

11月の蒼阿祭では、今年は後援会の方、元本校職員の方に加わっていただきました。蒼阿祭の演奏に参加を希望される方は、顧問教員、部員までぜひご連絡ください。

12月の四国地区高専総合文化祭、今年度も審査なし（経費削減の一環）。少人数ながら、今年度の総括的な演奏を行うことができました。

1月のアンサンブルコンテストの結果については、原稿締切の関係で、次号にて報告することといたします。なお、昨年度のアンサンブルコンテストは銀賞でした。

（吹奏楽部顧問 錦織浩文）

茶 道 部

茶道部OB・OGの皆さま、お元気で活躍のことと存じます。茶道部は現在部員18名（5年2名、4年3名、3年7名、2年4名、1年2名）で活動しています。

学寮の教養講座のお手伝い（月曜の夜）を中心に、毎週2回ずつ、高志会館2階和室で部員たちはお点前の稽古をしています。教養講座の日には亀井かよ先生・林初音先生も来校されて、熱心にご指導いただいています。

顧問は私（藤居）のほか、機械コースの大北裕司先生が引き続き担当しています。今年度は部員にモンゴルから留学しているソコさんが加わりました。茶道部としては初めての留学生部員です。正座は苦手なようですが、非常に熱心にお点前の練習をしています。ゆくゆくはモンゴルにも茶道を広めてもらいたいです。

また、以下に示しているような恒例の行事を今年度も実施しています。春のチャリティー茶会も恒例となり、大盛況でした。7月には、本校と協定を結んでいるドイツ・オストファリア応用科学大学訪問団の教職員・学生総勢20名を超える方々をTeaCeremonyでおもてなしいたしました。ソコさんを中心に部員たちは英語で茶道のお点前を訪問団の方々に伝えていました。お点前後に行なわれた学校の懇親会では、茶道部の女子学生とドイツの女子学生とが仲良く交流していました。

11月の蒼阿祭のお茶会では、林先生のお世話で女子学生

が和服でおもてなしをいたしました。和服を着る機会はありませんので女子部員は喜んでます。例年どおり、茶道部OB・OGが何名か、顔を見せに来てくれました。また、こちらも例年どおり、茶道部でもないのに「お茶と茶菓子が好きだ」と日に何度もくつろぎに来る男子学生もいました。

亀井先生・林先生のご指導のもと、相変わらず和気藹藹の雰囲気の中で、みな一所懸命にお点前の稽古に励んでいます。

学寮の教養講座以外の今年度の茶道部の主な活動状況です。

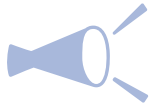
- ・4月 春のチャリティー茶会
- ・7月 ドイツ・オストファリア応用科学大学
訪問団おもてなし
- ・11月 蒼阿祭お茶席
- ・12月 四国地区高専総合文化祭
（新居浜高専主管）お茶席
- ・1月 初釜チャリティー茶会（予定）

部 長 拝郷朱夏（化学コース4年）

顧 問 藤居岳人（一般教養）、大北裕司（機械コース）

今後ともOB・OGの皆さまにはご支援のほど、よろしく
お願い申し上げます。

（茶道部顧問 藤居岳人）



悠久同窓会東京支部「青梅1泊会」

昭和43年度電気 湯浅尋夫

恒例となりました「青梅1泊会」が、今年も、秋盛りの11月10日(金)、11日(土)の2日間に、開催されました。

青梅市の「かんぼの宿 青梅」に宿泊・宴会。翌日は奥多摩の御岳溪谷の散策が主な行事です。

「青梅1泊会」は、元々は、青梅在住の1E・増田さんを囲み、励ます事を目的に、1E・石田さんが幹事を務め1期生を中心に行われてきたようですが、今回で5回目となり、1期生7名、2期生5名、4期生4名の総勢16名の盛会となりました。いつものメンバーに加え、1E・味間さん、1E・和田さん(鳴門から)、2E・相木さん、2E・大西さん(大阪宝塚からゴルフにつられて)が新たに参加されました。

昨年から、持ち廻りで結果報告することになり、今回は私の担当。遅筆で、一夜漬けの癖が未だに抜けないのですが、締め切り(11月15日)が近いので、盛り上がった話題を中心に、思いつくまま書いております。

*宴会 白梅の間 18:00～21:30

入浴、部屋飲みを済ませ宴会場へ。2期、4期生は下座席にて待機(たまたまそうなった)1期生入場で宴会開始。

味間さんの乾杯音頭の後には、飲み食い放題状態。ピールの銘柄指定やら、各種地酒(300mm 950円)を追加注文するやらと、会費(17,000円 高い)の元を取る勢い。危険を察知した幹事の石田さんから、1分間限定で自己紹介と、タメになる話をするようにと指示有り。2M・乾さんから話し始め、2期、4期生は何とか時間を守ったが、1期生は、なんと平均20分スピーチ。後輩が気を使い、要らぬぬいの手を入れたり、質問をした為なので仕方が無いか。味間さんのブラックジャックに勝つ確率論、和田さんの川柳の話は参考になった?

喜多さんからは、「阿南ふるさと光流会」への参加呼びかけ(喜多さんが会長)と、来年の50周年記念総会(11月10日、徳島駅前クレメントホテルにて)の案内があった。9時近くに増田さんが来られたので、全員で出迎え。記念写真を撮り、4M・福居さんの中締めで、ようやく閉会となった。遅くまで仲居さんにはお世話になりました。

*2次会 4期生の部屋 21:30～24:30

宴会の流れそのまま、2次会開始。学生時代の様々な思い出話に花が咲く。

50年前の事をよくも覚えているなど感心する。歳をとると、近くの事は忘れるが、昔のことはよく覚えていると言うのが本当の様だ。石田さんが、学生時代、寮生活の思い

出写真を、パソコンに記録されており、懐かしく拝見した。

特筆すべきは、昭和39年6月ごろ、東京オリンピックの聖火リレーが、見能林の学校前を通り、その聖火ランナーを1期生が務めたとの事。記念写真が残っていたのに驚いた。(ランナー、伴走者、関係者、新聞部員の集合写真)1期生の名前は判明したとの事。2期生は、2E・坪内しか解からなかった。

*御岳溪谷散策と昼食 翌日 10:00～13:30

天気予報では、雨とのことであつたが、朝から、秋晴れの行楽日和。

増田さんの迎えを待ち、8台の車に分乗。玉堂美術館のある散策開始地点に移動し、近くの駐車場に駐車。

料金を無料にするため、食事処「いもうと屋」で土産物をそれぞれ買う。(最低500円で、2.5時間無料となる)

多摩川上流のこの付近は、遊歩道が整備されており、散策にはもってこい。折しも、カヌー競技が行われており、ゴムボートでラフティングする若者や、忍者返し(の岩でクライングを行う)学生も大勢いた。

下流の昼食予定地まで1.5キロ。車の移動をどうするかで一騒動。増田さんをお願いし、運転手をピストン輸送する最初の案、運転手のみ走って帰ってきてもらう案、全員往復し、出発地の「いもうと屋」で食事する案等等。

最終的には往復案で決まったが、20分のタイムロス。最初のつり橋で揺れながら合同写真を撮る。道々先頭が入れ替わりながら(自然にそうなる)又、休憩場所(約500m毎にある)では景色を愛でる振りをしながら休む。

行き交うおばさん連中に冗談を言ったり、逆にかまされたりしながら、どうにかこうにか帰り着く。

和田さんの川柳の一句を拝借する。「手抜きする 知恵と経験なら 豊富」

昼食は昨年と同じく「いもうと屋」の豆彩麺(1,180円これしかない)をいただく。稲庭風うどんに豆乳と柚子胡椒をかける趣向で味が変化し、美味かった。

*酒蔵見学 小澤酒造 14:00～14:40

小澤酒造は、「澤乃井」の銘柄で、石川酒造の「多摩自慢」と共に、東京地酒として多摩地区で有名な酒蔵。

外国人2人を含む40人ほどの見学者に混じり工場見学。日本酒のできるまでの工程説明の後、酒蔵を見て回る。

大きな貯蔵タンクが200基ほどある。1基を1人で飲み干すには、120年程度かかるらしい。

創業は、江戸中期の元禄時代と歴史は古い(酒税を納め

た古文書が残っており判明)最後に、大吟醸「…」を試飲させてもらい見学終了。

ショールームに有った「酒匠会」発行の一言集から「酒飲みは辛口が好きである。体に悪かろうが肴は少なくてよい。酒の相棒としての役割を果たしてくれば十分。大辛口であったなら「よし、やってやろうじゃないか」と思ったりする。やはり酒は人生の友である。大辛口は都合の良い友人ではないが、他に代えられない個性が楽しい。友情が芽生えたら幸いである。」

***コーヒータイト 紅梅苑 15:00 ~ 15:45**

酒造見学の後、佐藤、大西、乾の3氏はここで別れ、残り組は、文豪吉川英治と関連があるという梅菓子処「紅梅苑」に向かい、休憩と買い物をする。コーヒを注文する時、いわれを聞いたが、バイトの若い女性だったので無視された。後で何うと、吉川英治の奥さん筋の方が経営しているらしい。(吉川英治記念館が近くにある)



石田幹事から次回の提案があり、群馬の「かんぼの宿磯部」に宿泊し、世界遺産「富岡製糸場」を見学してはどうか?

幹事にお任せすることで決定し、次回再会を期し、散会となりました。

石田幹事、大変お世話になりました。

参加者 (敬称略)

- 1 期生：石田徳平、喜多明徳、下条哲也、矢野健二郎
味間 務、和田健史、増田孝次
- 2 期生：乾 寛、佐藤忠氏、相木隆義、大西孝行
湯浅 尋夫
- 4 期生：川人真佐司、敏鎌次朗、生田守一、福居英徳



東京支部悠久同窓会開催について

支部長 (昭和 48 年度機械) 高 橋 保 人

悠久東京支部同窓会を平成 29 年 4 月 15 日 (土) 午後 1 時から、いつもの新宿住友三角ビル 47 階住友クラブにて開催しました。毎年 1 期生の喜多明徳氏のおかげで会場を確保できることができ、感謝の一言です。

当日は 7 期生の赤池一夫氏より乾杯の発声の後、母校の寺沢校長先生の挨拶に始まり、更に徳島県東京事務所の森吉副本部長、及び阿南東京事務所の吉村所長にも挨拶をお願いしました。尚、森吉副本部長の挨拶の中で、ご令嬢が母校の学生であることが判明しました。将来、関東方面に就職した際は、本同窓会に参加できることを楽しみに待ちたいと思います。更に、田中達治先生には毎年徳島から参加をして頂いています。若い卒業生を誘ってこの場に参加してもらっています。師弟愛が伝わってきます。今回は、1 期生から 46 期生まで総勢 37 名の集まりとなり、おおいに盛り上がった 1 日になりました。

また、久しぶりに徳島から 10 期生・鈴江省吾氏の参加がありました。阿南市役所定年後も幅広く積極的に活動されており、刺激を受けた時間となりました。

いつものように会員メンバーの近況報告が終わり、恒例のビンゴゲームを行いました。進行約には、常連となった 35 期生の山内伸江氏と 42 期生の谷澤彰紀氏にお願いしました。盛り上がる中、「アッ」と言う間に時間が過ぎてしまい、最後に 7 期生の塩田龍海氏に締めをやって頂きました。

今回は 4 月第 2 土曜日の 4 月 14 日に元気な顔で会うことを約束し散会となりました。散会後も名残惜しい集団が二次会に消えていったことをお伝えしておきます。

追 伸

今回は 3 名が初めて参加しました。関東にいる卒業生は年に一度ですので、是非参加し親睦を深めて頂ければと思っています。

次回同窓会は、平成 30 年 4 月 14 日 (土)、新宿住友三角ビルにて行う予定です。時間については別途案内いたします。

近況報告

湯 浅 尋 夫 (2 E) 昭和 43 年度

昨日、OB会ゴルフコンペで準優勝！まだまだやれる。浦安在住 40 年。コンサートホールがオープンし、ボランティアで運営の手伝いを申込中。

相 木 隆 義 (2 E) 昭和 43 年度

久しぶりに出席させていただきました。これからも、皆様と交流を深めたいと存じます。よろしくお願い致します。

清 水 哲 男 (2 M) 昭和 43 年度

孫 3 人すべて男の子なので、相手するのが大変です。口だけでの対応で済ませてきた今までの人生が今頃になって変わってきてます。

乾 寛 (2 M) 昭和 43 年度

目標なくして達成感なし、達成感なくして充実感なし。充実感なくしてハッピーエンドなし。何でいい、とにかくハードルを作りましょう。終着駅が近づいてくると、精神の健康維持にも自然と気合いが入ります。

喜 多 明 徳 (1 M) 昭和 42 年度

創部 34 年目のソフトボールチーム、区春季大会 1 回戦にて敗退。秋季大会に向け練習に励みます。阿南ふるさと会の東京ドームホテルでの光流会は 10 月 3 日(火)です。多数の悠久仲間の参加を期待しています。

石 田 徳 平 (1 E) 昭和 42 年度

元気でやっております。先月所用で熊本まで行ってきました。その時熊本城の变りはてた姿を見て、自然の力の大きさを実感。テレビで見聞きするのとは大違い。くずれた一つ一つの岩にナンバリング。これを今後修復するという人間の力も改めて感じさせられました。

塩 田 龍 海 (7 M) 昭和 48 年度

一人息子がやっと大学に入学！これからも何年か働かないといけない状況です。ガンバルぞ～！

敏 鎌 次 朗 (4 M) 昭和 45 年度

元気にウォーキング・ジョギングに励んでいます。何とか 80 才過ぎまでゴルフを続けるのが目標です。

福 居 英 徳 (4 M) 昭和 45 年度

又、悠久同窓会に出席出来て幸せです。2 月 11 日には、帰省して、4 M の同窓年 6 名と楽しく、一杯やりました。健康でなければこんな幸せな事はないので、体を大切に過ごしたいと思っています。

川 人 真 佐 行 (4 E) 昭和 45 年度

’17 年 3 月 31 日を以って完全退職しました。これからは自由人として気ままに生きていこう、と思います。

速 水 隆 夫 (10 E) 昭和 51 年度

知財関係の仕事を継続しています。まだしばらくは続けなければいけないので、健康に気をつけたいと思います。

山 内 伸 江 (35 E) 平成 13 年度

やっと結婚できました。家事は全然ですが、ぼちぼちやります。今回は同期が 4 人！嬉しいです。



悠 久 東 京 支 部

宮 城 進 [山崎辰三郎] (2 M) 昭和 43 年度

早いもので 68 才。おかげ様で、舞台の世界で生きております。あと 5 年現役で！が目標です。阿南高専の変わり者をヨロシク！

柳 田 剛 志 (22 C) 平成 4 年度

上京してきて 3 年目。関東悠久同窓会に参加して 3 回目。諸先輩方のパワーに圧倒されてます。さらなる発展を願ってます。今年こそ、東京マラソン走って徳島に帰ります。

高 橋 保 人 (7 M) 昭和 48 年度

今年も無事悠久同窓会ができました。皆様のおかげで盛況のうち終了することができ来年も楽しみにしています。

川 田 政 也 (36 S) 平成 14 年度

4 月より異動となりました。昨年 8 月に結婚致しました。

高 橋 寛 治 (47 S) 平成 25 年度

4 月から新卒で Sansan 株式会社に入りました。自然言語処理の研究をやっています。制御情報出身。

谷 澤 彰 紀 (42 S) 平成 20 年度

毎年参加させてもらってます。NW のエンジニアやっていますが、そろそろ変わるかもしれない。

畑 山 芳 文 (4 E) 昭和 45 年度

昨年 2 月に生まれた孫が歩きはじめ、じじばばはかわいい、かわいいとたまに遊んでいます。

工 藤 陽 史 (8 M) 昭和 49 年度

子供 2 人も就職し、妻と 2 人でゆったり生活しています。ISO 審査員でもう少し頑張ります。

赤 池 一 夫 (7 M) 昭和 48 年度

第 2 就職先 3 年目。この年齢にしては良い年俸をもらえています。高専バンザイ！！

佐 藤 忠 氏 (2 E) 昭和 43 年度

晴外・雨内で、晴れると外で遊び、雨だと仕事してます。一日一生。元気がなにより。

近 藤 俊 昭 (6 E) 昭和 47 年度

卒業以来ずっと同じ会社で仕事をしてきました。それもそろそろ終りです。(再雇用の終り) 体は元気なのでこれから職さがしです。

本田 勝 (13 E) 昭和 54 年度

今年 58 才になりますが、会社では営業チームリーダーとして頑張っています。しかし営業マンは私一人ですが。

森 宜彦 (12 E) 昭和 53 年度

相変わらず、手のモデルです。IT の現場でプログラムもやっています。新規ビジネスにも挑戦したいと思っています。

田中 達治 (13 E) 昭和 54 年度

同窓会 50 周年よろしくお祈りします。

西 智義 (13 M) 昭和 54 年度

久しぶりの参加です。フランスの会社でシステム系の仕事です。忙しいながら、過ごしています。

鈴江 省吾 (10 M) 昭和 51 年度

初代阿南市東京事務所長時代、悠久同窓会の皆さん本当にお世話になりました。3 月に退職し、4 月から大正大学の研究員として、阿南と東京を結ぶ活動をやります。どうかよろしくお祈りいたします。

梶村 宜弘 (35 S) 平成 13 年度

今回初参加です。神奈川で会社員やっています。宜しく

お願い致します。

近藤 徹也 (35 S) 平成 13 年度

今回初めて参加させて頂きました。埼玉県で、猟銃・空気銃の修理・販売をさせて頂いております。輸入に頼りきりの国内の現状を打破し、国産銃の開発に取り組んでいきたいと思っています。

佐竹 善仁 (35 E) 平成 13 年度

田中先生の熱烈なオファーにより、2 回目の参加となります。ありがとうございます。

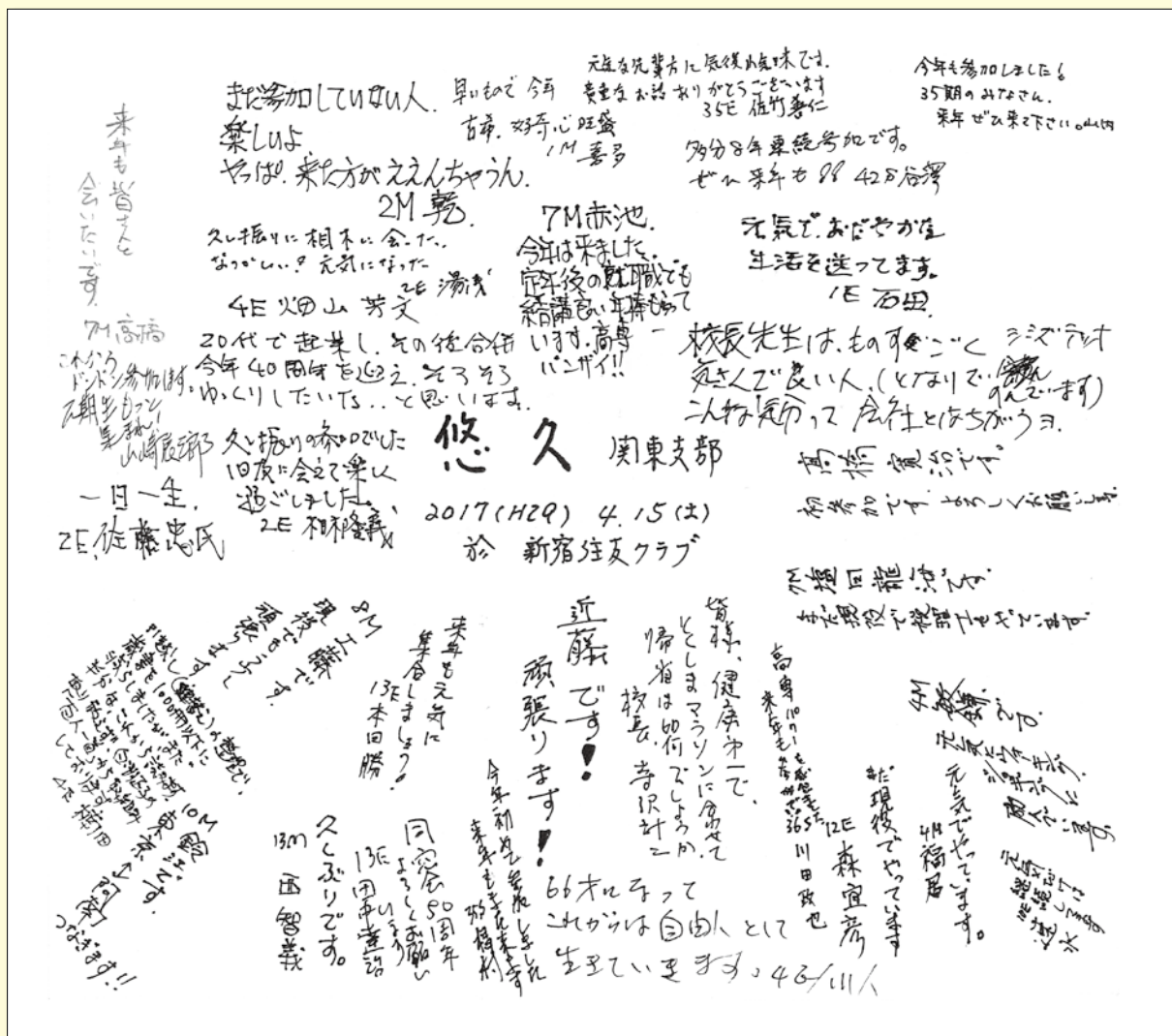
新宿区にてコンピュータ会社の役員をしております。中小企業ですが高専生の採用を行えるようにがんばります。

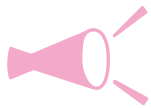
中野 愛子 (30 S) 平成 8 年度

2 回目の参加です。SE をさせて頂いております。同郷の皆さんとの交流を楽しみにしております。

楠田 幸司 (4 E) 昭和 45 年度

この所、皆勤を維持しております。最近では長距離を歩くことを心掛けています。





31期生合同同窓会開催

平成9年度建設 東 和 之

2017年は、私たち31期生が母校、阿南高専を巣立って20年目の節目の年でした。この記念すべき年に、恩師の先生方をお迎えし、2017年10月7日、ホテルクレメント徳島において、4学科合同の同窓会を開催しました。同窓会当日は12名の恩師と80名の同窓生が集まり、非常に楽しい時間となりました。ここに、悠久同窓会関係者の皆様に報告させていただきます。

同窓会の実施にあたっては、今田衛君（電気卒業）を中心として、各学科2名ずつの実行委員を選出して準備を行って参りました。恩師の先生方へのお声掛けは、私たちが在学中にご指導頂いた先生方のうち、現在も阿南高専に在籍されている先生方を中心とし、一部の退職された先生方にも行いました。同窓会にご出席くださいました先生方は、柏原健司先生、藤居岳人先生、一森勇人先生、今田浩之先生、和田英作先生、中村雄一先生、田中達治先生、笹田修司先生、高岸時夫先生、森時秀司先生、遠野竜翁先生、青木久美子先生です。ここに順不同にて紹介させていただきますとともに、ご出席頂きましたことに改めて御礼申し上げます。

当日は、県外はもとより、海外から帰国しての参加者もあり、卒業生の半数以上である80名が集まりました。各々40歳を迎え、学生の頃とは容姿も変わっていましたが、

恩師の先生方を囲み、懐かしい同窓生と話していると、みんなが根本的な所では変わっていないことが分かり、非常に嬉しくなりました。しかしそれと同時に、それぞれが各自の責任をしっかりと持って、仕事などに打ち込んでいることも分かり、参加者全員が非常に刺激を受けることが出来たのではないかと考えています。

不惑を過ぎ、私たちの世代も社会的な責任が重くなる年代となっていきます。高専卒業生はマイノリティですが、それだけに絆が強く、様々な面で協力し合えることが多いと思います。この繋がりを大事にし、是非また次の同窓会を笑って迎えられるようにしたいと考えています。なお、本同窓会の余剰金は、同窓会会場でお話しさせて頂いた通り、悠久同窓会に全額寄付（余剰金130,000円より振込手数料432円を除いた129,568円）しましたので、ここに報告致します。

最後に、本同窓会実施に向けて尽力した実行委員を紹介し、本稿を締めさせていただきます。機械：笹野玄明君・出口宏一郎君、電気：今田衛君・川田康博君、制御：豊田雅彦君・山本哲也君、建設：岩田美一君・東和之、以上の8名です。同窓生の皆さんは、飲み会等で会った際には「お疲れさん！」と労をねぎらって頂ければと思います。それでは皆さん次回の同窓会でお会いしましょう！

よろず
伝言板

「各種証明書」の発行事務についてのお願い

卒業生の皆様が、各種資格の取得、就職試験、進学受験、海外出張等をされる場合には、ほとんどの場合、本校に在籍し、または卒業・修了したことについて、各種の証明書が必要です。(卒業・修了・成績・履修・調査書など) これらの証明書を速やかに発行するため、以下のことにご留意・ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

1. 各種証明書の発行申請について

各種証明書の発行は、「諸証明書発行願」により、学生課教務係へ申し込んでください。

この発行願は、教務係に設置しているほか、学校のホームページからダウンロードすることができます。提出するときには、押印が必要です。

2. 遠隔地からの発行申請について

県外在住など来校するのが難しい場合、下記のことを郵送して申し込むことができます。

① 「諸証明発行願」：発行願には下記のことを記載してください。

(ア)必要な証明書の種類 (卒業証明書・成績証明書等)

(イ)必要部数

(ウ)使用目的・提出先

(エ)氏名 (卒業時の名字)

※英文証明書が必要な場合は、パスポートどおりのローマ字表記を併記してください。

(オ)生年月日

(カ)卒業・修了学科

(キ)卒業・修了年月日

② 返信用封筒

(ア)郵便番号・宛先・宛名を記載してください。

(イ)切手 (必要部数が多い場合は90円か120円) を貼ってください。

速達の場合は360円若しくは390円です。

3. その他

①英文証明書や調査書の発行には、少なくとも1週間を要します。また、郵送の場合はさらに3日程度を要しますので、十分な余裕をもって申し込んでください。

②緊急に証明書が必要な場合で直接窓口に来られるときは、事前に電話をいただけると、お待たせせず証明書を発行できます。

※英文証明書・調査書・高等学校卒業程度認定試験に関する証明書は、即日発行できませんのでご了承ください。

③発行は無料です。郵送の場合は、郵送実費(切手)のみ必要です。

④証明書の氏名は、本校卒業時氏名での発行となります。

各種証明書は、皆様ご自身に関する一身上の極めて重要な意味をもった公文書ですから、発行には慎重な事務手続きを期すとともに、皆様の要望に、円滑に対応できるよう努力いたします。申し込みの際には、上記のことをご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

■申請先■

〒774-0017 阿南市見能林町青木 265

阿南工業高等専門学校 学生課教務係

電話 (0884) 23 - 7133

FAX (0884) 22 - 4232

この“よろず伝言板”は「悠久」の誌上を通じて会員相互の心の絆を深めるために設けたものです。

何でも結構!! ふるって御投稿下さい。

悠久第51号原稿募集 (阿南高专悠久編集部)

阿南高专同窓会誌「悠久」も本号で第50号となります。最近では会員たよりの原稿を集めるのに苦労しています。来年の51号を充実したものにするため、皆様の楽しい便り、写真、マンガ、イラスト、俳句など、何でもかまいません。どしどし原稿をお送り下さい。量はA4版1枚に収まる範囲程度です(もちろん少ない原稿も歓迎します)。郵送もしくは左記のメールアドレスに添付ファイルにてお送りください。

編集委員一同首を長くして待っています。

編集委員

1	回機械	上田登志男(徳島市)
1	回機械	福田正和(阿南市)
1	回機械	林岩男(藍住町)
2	回機械	林政憲(徳島市)
2	回電気	中津清(徳島市)
2	回電気	岡本満雄(徳島市)
3	回機械	寒川和哲(小松島市)
3	回機械	藤井美廣(徳島市)
3	回電気	荒木敏雄(小松島市)
4	回電気	中山茂樹(徳島市)
4	回電気	平尾強一(阿南市)
5	回電気	正部敏雄(小松島市)
5	回土木	上森忠敬(徳島市)
8	回機械	森岡豊(鳴門市)
13	回電気	齋藤友和(徳島市)
13	回機械	田中博文(徳島市)
17	回機械	伊丹達伸(阿南市)

原稿送り先

〒774-0017

阿南市見能林町青木 265

阿南高专内悠久同窓会事務局

dosokai@anan-ct.ac.jp

メール送付先

平成30年11月15日必着

原稿締切

寮 歌

野上 彰 作詞
三枝 成章 作曲



寮歌

黒潮よせる南の

作詞 野上 彰
作曲 三枝 成章

一、黒潮よせる 南の

橘湾の 朝焼けに

染めて清しき若き眉

高き理想に 輝やくを

ああ幾年か 花ひらき

ああ幾年か 花は散る

されど変らじ 永遠に

われらの誓い 新たなり

われらの誓い 新たなり

二、山脈青くすき透る

星越峠 秋深き

若き生命を 培いて

築く歴史に誇りあり

ああ人の世は けわしくて

ああ人の世は うつろえど

かく抱きし 大いなる

望みとゆめははるかなり

望みとゆめははるかなり

度か寮生達の歌う寮歌“黒潮よせる南の”を聴いたことがありました。また後年、卒業生の同窓会に招かれた折の同窓生らの寮歌合唱を幾度か耳にし、なかなかの名曲だと感じたことがありました。

しかしオリジナルの楽譜や、歌詞や楽譜、作詞者作曲家について目にする機会もなく、歌詞メロディーを正確に探索することもなく、半世紀が過ぎてしまいました。

先頃私は阿南高専現役時代の古い資料の中に思いがけず校歌寮歌のオリジナル歌詞楽譜を発見しました。それはまるで50周年記念の年を待ちわびて甦って来た様に思われ、懐かしさと感慨を覚えました。と同時に寮歌“黒潮よせる南の”の作詞者と作曲者を初めて知って驚喜しました。作詞は野上彰、作曲は三枝成章で徳島県の音楽史に残る誇るべき素晴らしい名歌でした。

野上彰は徳島出身の著名な詩人です。旧制徳島中学校（現城南高校）在学時代の野上と親交があった学友で阿南高専在職中の故撒広義先生を介して寮歌の歌詞が依頼されたと思われ、野上彰には最晩年の作詞であったでしょう。又楽譜上の作曲家三枝成章は今日、日本を代表する著名な作曲家音楽プロデューサーである三枝成彰氏その人であり、寮歌を作曲したのは旧姓成章から成彰への改名前で25歳の頃と思われ、三枝氏が東京芸術大学音楽部在籍し数々の国内外音楽コンクールで受賞されるなど、多才な作曲活動を始められた頃ではなかったでしょうか、作曲家依頼にあってはおそらい作詞者野上彰に一任で三枝成章氏に託されたのではなからうかと思われ、

このような高名な作詞者と新進気鋭の若き作曲家によって50年前に作られた阿南高専寮歌“黒潮よせる南の”には創設当時の誇り高き思いが込められていたのではないのでしょうか。清美な故郷阿南の自然に培われた若者のはるかなる夢と希望を歌った“黒潮よせる南の”には半世紀を過ぎた現在でも変わらない初々しいロマンと誇りと癒しが溢れています。（本誌には校歌と共に“黒潮よせる南の”歌詞・楽譜が掲載されています。）

校歌の静に対し寮歌が動の良きコントラストをなしています。それにしても何故“黒潮よせる南の”が校歌ではなく寮歌なのか、野上への作詞依頼がどんな経緯で（校歌ではなく）寮歌になったのかについては興味あるところです。

三高寮歌“紅萌ゆる”や北大寮歌“都ぞ弥生”が今日も愛唱され歌い継がれているように、旧制高校や高等工業学校では校歌より寮歌の方が格が上だった！と前校長小松満男先生からお聞きしたことがありました。阿南高専創設時に関わられた大先輩の先生方もそんな想いの中でおられたのでしょう。

野上彰作詞・三枝成章作曲の寮歌“黒潮よせる南の”は阿南高専の大切な宝です。阿南高専が50周年を迎える新時代を機に名歌“黒潮よせる南の”を寮生だけでなく、阿南高専学生歌として阿南高専生の気概昂揚に登板してもらい、阿南高専存在の象徴としてこの名歌を県民はじめ多くの方々には是非知ってもらいたいと願っています。

スポーツの対外競技大会などのイベント（もしも甲子園に出場することあったら）では絶対に“黒潮よせる南の”の方を奏でて欲しいです。

阿南高専悠久同窓会 創立50周年記念式典のご案内

記念式典実行委員会

拝啓 早春の候 皆様方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて 私共の阿南高専悠久同窓会はこのたび創立50周年を迎えることになりました。

これもひとえに皆様方のご指導ご支援の賜と深く感謝申し上げます次第でございます。

つきましては ささやかではございますが「記念ゴルフコンペ」「記念式典」・「記念講演」・「祝賀会」を下記のとおり開催することになりました。

公私共何かとご多用のことと存じますが何卒ご来臨賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

名誉教授会よりなつかしい先生方がお見えになります。古き良き時代の話で楽しい時間を過ごしていただければと思います。



記

- 日 時 平成30年11月10日(土) 15:00 受付
(申込み8月31日迄)
- 場 所 ホテルクレメント徳島 (JR徳島駅直結)
- 会 費 10,000円
(同封の振込用紙で振り込むと申込みとなります)
- 申込先 悠久事務局
TEL.0884-23-7142 FAX.0884-22-4232
〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265
Mail: dosokai@anan-nct.ac.jp
- 定 員 会場の都合により先着50名様まで
- ※ 記念ゴルフコンペ 11月9日(金) 月ノ宮
(申込み8月31日迄)
(会費: 3,000円) 先着20組80名様の予定



- 一、開宴の挨拶
- 一、乾 杯
- 一、余 興
- 一、寮歌斉唱
- 一、万歳三唱



悠久同窓会創立50周年祝賀会

17時30分



記念講演会 16時00分

講演 住友達也(11M)
(株)とくし丸 代表取締役



- 一、開式の辞
- 一、来賓祝辞
- 一、来賓紹介
- 一、謝 辞
- 一、祝電披露
- 一、感謝状贈呈
- 一、校歌斉唱
- 一、閉式の辞

式典 15時30分

プログラム



阿南高専卒業生数

()内は女子数で内数 平成29年12月31日現在

卒業年度	卒業期	機械工学科	電気工学科 電気電子工学科	制御情報工学科	土木工学科 建設システム工学科	合計
昭和42	1	80	38 (1)	0	0	118 (1)
43	2	79	36 (2)	0	0	115 (2)
44	3	69	31	0	0	100
45	4	65	36 (1)	0	0	101 (1)
46	5	54	35	0	33	122
47	6	81	39 (1)	0	34 (1)	154 (2)
48	7	67	36 (1)	0	37	140 (1)
49	8	61	34 (1)	0	29	124 (1)
50	9	69	32 (1)	0	35	136 (1)
51	10	61	36	0	37	134
52	11	82	40	0	37	159
53	12	67	31	0	29	127
54	13	71	40	0	30	141
55	14	66	38	0	31	135
56	15	64 (1)	38	0	33 (1)	135 (2)
57	16	61	35	0	31 (4)	127 (4)
58	17	65	37	0	26	128
59	18	76	34 (1)	0	34	144 (1)
60	19	53 (1)	37	0	32	122 (1)
61	20	75	36	0	28	139
62	21	59	40	0	32	131
63	22	71	40	0	39	150
平成元	23	72	41 (1)	0	42 (1)	155 (2)
2	24	75	42	0	32	149
3	25	78	44 (1)	0	38 (1)	160 (2)
4	26	74	43 (1)	0	31	148 (1)
5	27	42 (1)	31 (1)	32 (8)	34 (2)	139 (12)
6	28	46	48 (1)	40 (12)	28 (2)	162 (15)
7	29	29 (1)	43 (2)	41 (10)	36 (3)	149 (16)
8	30	43 (1)	37 (2)	39 (12)	45 (3)	164 (18)
9	31	37 (1)	41 (4)	38 (16)	35 (7)	151 (28)
10	32	38	41 (1)	40 (12)	42 (6)	161 (19)
11	33	33	36 (6)	33 (11)	36 (6)	138 (23)
12	34	45 (3)	37 (5)	39 (12)	39 (12)	160 (32)
13	35	34	40 (1)	37 (14)	38 (10)	149 (25)
14	36	31 (3)	38 (7)	28 (10)	32 (5)	129 (25)
15	37	39 (1)	36 (5)	31 (11)	38 (13)	144 (30)
16	38	41 (2)	43 (6)	40 (16)	39 (11)	163 (35)
17	39	38 (1)	36 (4)	40 (17)	34 (14)	148 (36)
18	40	37 (1)	43 (4)	31 (7)	28 (8)	139 (20)
19	41	36	42 (2)	29 (10)	32 (9)	139 (21)
20	42	35	45 (5)	38 (7)	37 (6)	155 (18)
21	43	35	39 (4)	38 (15)	40 (7)	152 (26)
22	44	36	38	34 (11)	27 (7)	135 (18)
23	45	42 (1)	37 (2)	34 (17)	33 (11)	146 (31)
24	46	41	44 (8)	47 (10)	34 (9)	166 (27)
25	47	47 (4)	44 (2)	41 (10)	20 (3)	152 (19)
26	48	40	39 (5)	36 (9)	29 (4)	144 (18)
27	49	45 (4)	36 (9)	41 (3)	22 (7)	144 (23)
28	50	41 (6)	40 (6)	37 (4)	30 (9)	148 (25)
合計		2,726 (32)	1,923 (104)	884 (264)	1,538 (182)	7,071 (582)

平成29年度卒業予定者(51回)

()内は女子数で内数

卒業年度	回数	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	建設システム工学科	合計
平成29年度卒業予定者	51	42 (7)	37 (6)	41 (9)	32 (8)	152 (30)

(注) ① 平成元年度から機械工学科(2学級)を機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組。② 平成5年度から土木工学科を建設システム工学科に改組。
③ 平成14年度から電気工学科を電気電子工学科に改組。④ 平成26年度から4学科を創造技術工学科1学科に統合。機械、電気、情報、建設、化学の5コース制に再編。

総会のお知らせ

2018年8月12日、下記のとおり総会を開催します。ふるってご参加ください。

講演会

10:30 受付
 11:00～12:00 林 政憲氏による講演会
 演題 「産業用中小型ガスタービンエンジンと
 共に半世紀の回想」

総会

12:00～12:30 総会
 12:30～14:00 名誉教授の先生方との合同食事会

人物紹介

林 政憲氏 プロフィール
 林 政憲 [Hayashi Masanori]

略歴

昭和 39年 4月 阿南高専に入学、陸上競技部を立ち上げる。
 昭和 44年 3月 阿南高専卒業。
 昭和 44年 4月 川崎重工業株式会社に入社、航空用 JETエンジンの部品製造、
 組み立て、試運転、フィールドサービス業務等を行う。
 昭和 47年 航空用ガスタービンを利用した発電設備を製造、本四公団の
 海上作業プラットフォーム（鳴門海峡）に設置、橋脚基礎岩
 盤掘削機の油圧機器の給電試験を行う。
 昭和 47年 純国産ガスタービンエンジン（GT）の開発業務に参加。
 昭和 52年 東京・芝のプリンスホテルのガーデンにて本邦初の国産ガス
 タービン発電設備（150KW）のお披露目発表会を各方面の
 方々を招待して行いました。川重の説明員として参加。
 昭和 54年 川崎重工業東京本社に勤務。GT発電業務に従事。
 昭和 56年 川崎重工業を退社。
 昭和 56年 9月 徳島市出来島本町にて四国工販株式会社を創立。
 昭和 58年 川崎重工業と代理店契約を締結 GT発電設備、熱源機器の販
 売保守、工事業務等を拡充する。
 昭和 63年 徳島市山城西に本社ビルを建設移転する。
 平成 17年 関西支店、東京支店を開設する。

寄付金募集のお知らせ（阿南高専悠久同窓会）

悠久同窓会会則第13条（本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもつてあてる）の規程により寄付金を募集しております。諸経費高騰で悠久同窓会の財政も苦しい折、広く御協力をお願い申し上げます。

送り先 阿南市見能林町青木 265
 阿南高専内悠久同窓会事務局

振込の場合 郵便局振込
 コンビニ振込
 銀行振込 高知銀行 阿南支店 普通
 口座番号 12139
 阿南工業高等専門学校悠久同窓会

事務局からのお願い

悠久同窓会発足 50 周年について
 1968年3月に1期生が卒業してから、2018年3月に50年を迎えます。悠久同窓会の発足50年を迎えるに当たり、何かいいアイデアがありましたら事務局までお知らせください。
 13E 田中達治
 (dosokai@anan-nct.ac.jp)